

車載型デジタル簡易無線機 IC-D6005

PLUS



この無線機をご使用の際には、総務省総合通信局への無線局の登録申請が必要です。
必ず登録申請をして、登録状が手元に届いてからご使用ください。

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた登録局対応の車載型デジタル簡易無線機です。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本機の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

本製品の概要について

- ◎IP54(防塵形と防まつ形)^{★1}の性能に対応できるように設計されています。
- ◎通話チャンネル番号や個別番号などの代わりに、漢字、英数字、記号、外字^{★2}を使用した名称で表示できます。
- ◎卓上電源装置(別売品:PS-230A)と組み合わせて、簡易基地局が構築できます。
- ◎デジタル通信によりクリアな音質で通話できます。
- ◎秘話を設定することで、他局に通話内容を傍受されるのを防止できます。
- ◎個別呼び出し機能を使用しない場合、種別コード「3R」、「3T」の他社製デジタル簡易無線機と通話互換があります。^{★3}

★1 「IP表記について」(P.ii)をご覧ください。

★2 HM-206(別売品:コマンドマイク)を接続しているときは、外字を表示できません。

★3 AMBE+2TM方式を採用している機種に対応しています。

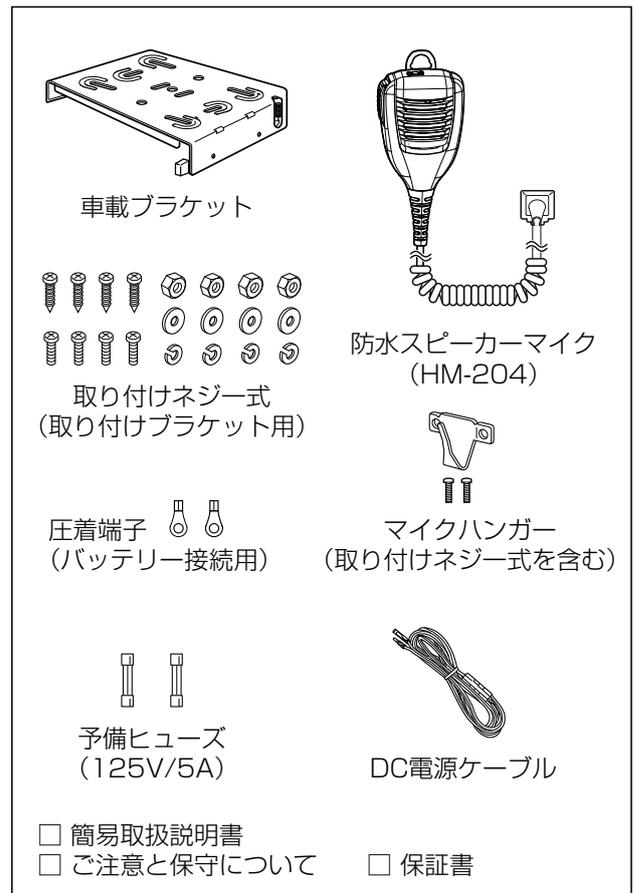
チャンネルについて

- ◎CH1～CH14、CH16～CH82 :通話用チャンネル
- ◎CH15(呼出CH)^{★1} :呼出用チャンネル
- ◎CH S1～CH S15^{★2} :上空用チャンネル

★1 一時的な呼び出しをするとき使用します。(P.2-2)多くの局が呼出用チャンネルを使用しますので、呼び出し後の通話は、空いている通話チャンネルに切り替えてから通話をつづけてください。

★2 上空用チャンネルでは送信できません。上空用チャンネルの設定は、販売店にご依頼ください。

付属品について



取扱説明書の内容について

本書に記載の操作や機能は、お買い上げの販売店であらかじめ設定をご依頼いただくことにより使用できる機能も含まれています。

登録商標/著作権について

アイコム、ICOM、ICOMロゴ、ポケットビーブ、コマンドマイクは、アイコム株式会社の登録商標です。

AMBE+2は、Digital Voice Systems, Inc.の商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

なお、本文中ではTM、®などのマークを省略しています。

本書の内容の一部、または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。

はじめに

電波法上のご注意

- ◎無線局の運用に当たっては、電波利用料を納付する必要があります。(納入告知書により、納付期限内に納付)
- ◎登録局の有効期間は、登録日から数えて5年間です。再登録の申請は、有効期間満了の3か月前から1か月前のあいだに手続きをしてください。
- ◎本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。分解や改造をしないでください。
- ◎本製品でご使用いただけるアンテナは、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けたものに限定されます。技術基準適合証明(工事設計認証)で登録されていないアンテナを使用すると、電波法違反で罰せられることとなりますので、ご注意ください。ご使用いただけるアンテナについては、弊社ホームページ <https://www.icom.co.jp/> をご覧ください。
- ◎他局の通信を妨害することや、通話の内容をほかにもらし、これを窃用することは、かたく禁じられています。
- ◎本製品は、日本国内における陸上、および日本周辺海域で運用する無線機です。上空での運用はできませんのでご注意ください。無線局登録状の範囲を超えた運用は、1年以下の懲役又は100万円以下の罰金に処せられることとなります。

IP表記について

機器内への異物の侵入に対する保護性能を表すための表記です。

IPにつづけて保護等級を示す数字で記載され、1つ目の数字が防塵等級、2つ目が防水等級を意味します。

また、保護等級を定めない場合は、その等級の表記に該当する数字部分を「X」で表記します。

【本書で記載する保護の程度について】

- IP5X(防塵形) : 試験用粉塵を1m³あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのち取り出して、無線機として動作すること
- IPX4(防まつ形) : いかなる方向からの水の飛まつを受けても有害な影響がないこと

防塵/防水性能について

マイクロホンを無線機本体に接続することで、IP54の防塵/防水性能があります。

次のような使いかたをすると、防塵/防水性能を維持できませんので、ご注意ください。

- ◎雨の中や水滴が付着、またはぬれた手で、マイクロホンや外部スピーカーを付けたり、はずしたりしたとき
- ◎コマンドマイク(HM-206)、または防水スピーカーマイク(HM-204)が接続されていない、または正しく接続されていない
- ◎落としたりして、強い衝撃が加わったとき
- ◎本製品を分解、または改造したとき
- ◎水や湯を水道の蛇口から直接当てたとき
- ◎水や海水につけたとき
- ◎-20℃~+60℃以外の環境で使用したとき

別売品の使用による防塵/防水性能について

防水スピーカーマイク(HM-204)、コマンドマイク(HM-206)を無線機本体に接続することで、IP54の防塵/防水性能があります。

※上記以外の別売品(8章)については、防塵/防水構造になっていませんので、ご注意ください。

はじめに

取り扱い上のご注意

- ◎テレビ・ラジオなどのAV機器や、携帯電話などの電子機器を近くで使用すると、電波障害を受けることがありますので、はなして設置してください。
- ◎直射日光の当たる場所に設置したり、長時間放置したりしないでください。
移動局として車内に設置する場合、炎天下では、車内の温度が極端に上昇し、本製品に悪影響を与えます。
また、真冬は、ある程度車内の温度を上げてからご使用ください。
- ◎車載運用では、バッテリー保護のためにも、1日の使用が終わったときは、必ず本製品の電源を切ってください。
- ◎磁気カードをマイクロホンやスピーカーに近づけないでください。
磁気カードの内容が消去されることがあります。
- ◎本製品の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。
- ◎本製品の故障、誤動作、不具合あるいは停電などの外部要因により、通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても、弊社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いませんのであらかじめご了承ください。

電磁ノイズについて

以下に示すようなインバーター回路内蔵の電気製品、および電子機器の近くで使用すると、電磁ノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。

【インバーター回路内蔵のおもな電子機器】

- ◎ LED照明器具 ◎ 電磁調理器 ◎ 給湯器
- ◎ 太陽光発電装置 ◎ 自動車に搭載された電子機器

自動車運転時のご注意

- ◎安全運転のため、運転中に無線機を操作したり、無線機の表示部を注視(表示部を見つづける行為)したりしないでください。
- ◎無線機を操作、または表示部を注視する場合は、必ず安全な場所に自動車を停車させてください。
- ◎安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で自動車を運転しないでください。
一部の都道府県では、運転中にイヤホンやヘッドホンなどを使用することが規制されています。

車両に取り付けるときのご注意

- ◎自動車の板金部に沿ってDC電源ケーブルを通す場合、保護用テープを巻くことをおすすめします。
DC電源ケーブルと板金部がこすれると、外被が破れ、ショートの原因となることがあります。
- ◎本製品を自動車に取り付けたあと、本製品の電源を入れた状態で、自動車のブレーキランプ、ヘッドライト、ウインカー、ワイパーなどが正常に動作することを確認してください。
- ◎アンテナの同軸ケーブルからも微小ですが電波がふく射されるので、自動車のコンピューター(コントロールユニット)、およびハーネスから遠ざけ、ハーネスと交差する場合は、ハーネスと直角になるように取り付けてください。
- ◎自動車のコンピューター(コントロールユニット)に影響をおよぼさないようにするため、無線機、アンテナ、同軸ケーブルなどは、次のような電波障害留意機器より20cm以上はなして取り付けてください。
 - エンジン関係：燃料噴射装置/エンジンコントロールユニット(ガソリン車)、グローコントロールユニット(ディーゼル車)
 - トランスミッション関係
 - ：電子制御式変速機/4WDコントロールユニット
 - その他 ：ECS/EPS/ABS/ETACS/フルオートエアコン/オートヒーターコントロールユニット/Gセンサー
- ◎本製品を操作中、自動車のコンピューター(コントロールユニット)に影響をおよぼしていることがわかった時点で、本製品の電源を切り、DC電源ケーブルを本製品から抜いてください。

放熱について

本製品は長時間運用すると、後面部の温度が高くなります。子供や周囲の人が後面部に触れないようにご注意ください。また、本製品はできるだけ風通しのよい、放熱の妨げにならない場所に設置してください。

はじめに

音声圧縮(符号化)方式について

本製品は、米国DVSI社の開発したAMBE(Advanced Multi-Band Excitation)方式を採用しており、AMBE+2™方式に対応しています。

The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to extract, remove, decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form U.S. Patent Nos. #8,359,197, #7,970,606 and #6,912,495 B2.

基本的な運用手順について

各手順の操作方法については、本書2章をご覧ください。

【通話チャンネルが決まっている場合】

- ①相手と同じ通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH82)に合わせます。
- ②【PTT】(送信)スイッチを押しながら、マイクに向かって通話相手に呼びかけ、【PTT】(送信)スイッチをはなします。

【通話チャンネルが決まっていない場合】

- ①「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)に合わせます。
※空いている通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH82)を事前に確認しておきます。
- ②【PTT】(送信)スイッチを押しながら、マイクに向かって通話相手に呼びかけます。
- ③通話チャンネルを通話相手に伝えて、【PTT】(送信)スイッチをはなします。
- ④通話相手に伝えた通話チャンネルに切り替えます。

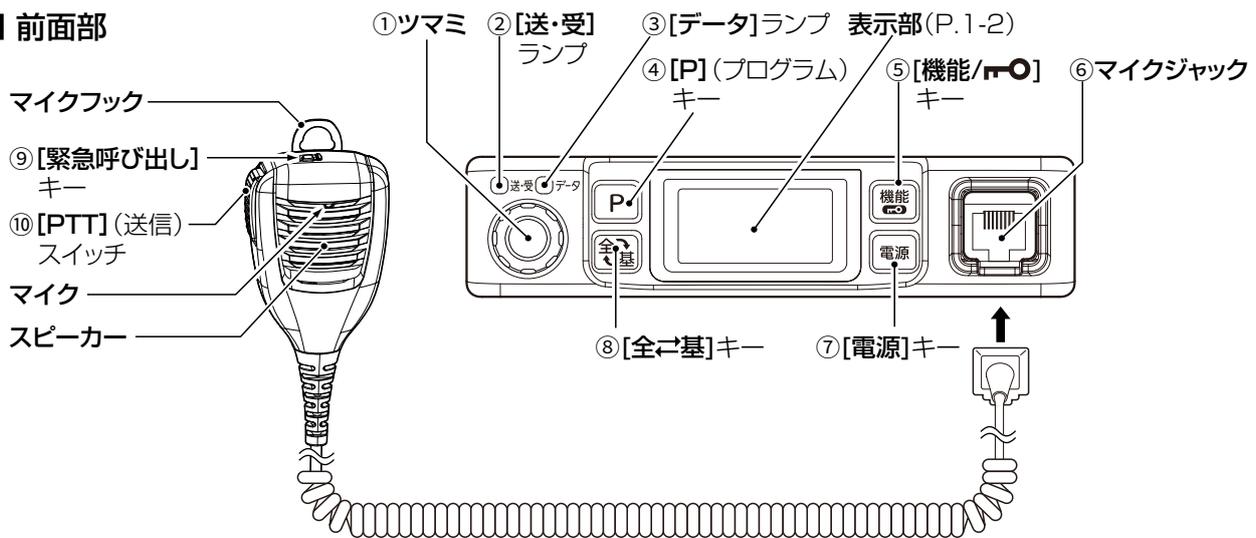
【通話チャンネルに設定できる便利な機能】

- ◎通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH82、CH S1～CH S15^{★1})には、ユーザーコード^{★2}(P.3-1)、および秘話キー^{★2}(P.4-1)を設定できます。
 - ★1 上空用チャンネル(CH S1～CH S15)では送信できません。
 - ★2 同じ設定の相手とだけ通話できます。
- ◎プライベートチャンネル機能(P.6-3)を使用すると、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)と通話チャンネルの切り替えに便利です。
- ◎プライベートチャンネルスキャン機能(P.6-3)を使用すると、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)と通話チャンネルの通信を交互に受信(監視)できます。

もくじ

はじめに	i	6.そのほかの機能について	6-1
本製品の概要について	i	■ ロック機能	6-1
チャンネルについて	i	■ 受信電波強度通知機能	6-1
付属品について	i	■ モニター機能	6-1
取扱説明書の内容について	i	■ 拡声器機能	6-1
登録商標/著作権について	i	■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)	6-2
電波法上のご注意	ii	■ プライベートチャンネル機能	6-3
IP表記について	ii	■ プライベートチャンネルスキャン機能	6-3
防塵/防水性能について	ii	■ メモリーチャンネルスキャン機能	6-4
別売品の使用による防塵/防水性能について	ii	■ ポケットビープ機能	6-4
取り扱い上のご注意	iii	■ 呼び出しメロディー機能	6-4
電磁ノイズについて	iii	■ 着信表示	6-4
自動車運転時のご注意	iii	■ 発信履歴機能	6-5
車両に取り付けるときのご注意	iii	■ 送信出力の切り替え機能	6-5
放熱について	iii		
音声圧縮(符号化)方式について	iv	7.各種機能の設定	7-1
基本的な運用手順について	iv	■ 設定一覧	7-1
		■ 設定モードに移行するには	7-1
1.各部の名称と機能	1-1	■ 詳細設定モードに移行するには	7-1
■ 前面部	1-1	■ 設定のしかた	7-2
■ 表示部	1-2	■ 設定項目について	7-2
■ 後面部	1-3		
2.通話のしかた	2-1	8.別売品とその使いかた	8-1
■ 通話するときのアドバイス	2-4	■ 別売品についてのご注意	8-1
3.簡単なグループ通話のしかた	3-1	■ ホームページに掲載	8-1
■ ユーザーコードを設定して通話するには	3-1	■ 別売品一覧表	8-1
■ チャンネル毎にユーザーコードを設定して通話するには	3-2	■ AM-5(アーム型マイクロホン)	8-1
		■ SM-28(デスクトップマイクロホン)	8-2
4.盗聴防止を設定するには	4-1	9.保守について	9-1
■ 秘話機能を設定するには	4-1	■ 日常の保守と点検について	9-1
■ 秘話機能を使用して通話するには	4-2	■ 初期状態に戻す(リセットする)には	9-1
		■ ヒューズの交換について	9-1
5.個別呼び出し機能による通話	5-1	■ 故障かな?と思ったら	9-2
■ 呼び出しかたの種類について	5-1	■ アフターサービスについて	9-3
■ 個別呼び出し機能を設定するには	5-2		
■ 個別呼び出し機能で通話するには	5-4		

■ 前面部



① ツマミ

音量を調整します。

※ **[全基地]** キー、**[機能/電源]** キーを押したあとに回すと、チャンネル番号、個別番号、グループ番号を選択できます。
 ※設定モードや詳細設定モード(P.7-1)では、選択した設定項目の設定値を変更するときに使用します。

② [送・受] ランプ

電波を受信しているあいだは緑色に点灯します。
 電波を送信しているあいだは赤色に点灯します。
 着信表示*1を「ON」に設定しているときに、着信があると、橙色に点滅します。

★1 設定はお買い上げの販売店にご依頼ください。

③ [データ] ランプ

データを送受信しているあいだは橙色に点灯します。

④ [P] (プログラム) キー

◎短く押すと、通話チャンネルを表示します。
 ◎押し続けているあいだは、モニター機能*2が動作します。
 ★2 音を聞きながら音量を調整するとき、ユーザーコードが異なる他局の通話や秘話機能を使用しない他局の通話を聞くときにも使用します。
 ※ **[P]** (プログラム) キーは、詳細設定モードで、短く押したときと、長く押したときの機能を割り当てできます。

⑤ [機能/電源] キー

◎短く押すごとに、通話チャンネル、ユーザーコード、個別番号をツマミで変更できる状態になります。
 ツマミを回すと、選択できます。
 ◎長く押すごとに、ロック機能がON/OFFします。
 ※ロック中でも**[電源]** キーと**[PTT]** (送信) スイッチは、操作できます。(P.6-1)

⑥ マイクジャック

防水スピーカーマイク(HM-204)、またはコマンドマイク(HM-206*3)を接続します。

★3 HM-206接続時の操作方法については、弊社ホームページ掲載の「IC-D6005取扱説明書(HM-206編)」をご覧ください。

※別売品のマイクロホン(AM-5、SM-28)を使用する場合は、外部スピーカージャックに外部スピーカ(別売品:SP-30、SP-35)のプラグを接続してください。

⑦ [電源] キー

電源の「入」/「切」を切り替えます。

⑧ [全基地] キー

押すごとに、「全体」→「基地」→「個別」→「グループ」の順に呼び出せる局を切り替えます。
 ツマミを回すと、個別、グループとして、設定された番号が選択できます。

⑨ [緊急呼び出し] キー

緊急呼び出し機能(P.6-2)が設定されている場合、長く(5秒以上)押すと、緊急呼び出しを開始します。

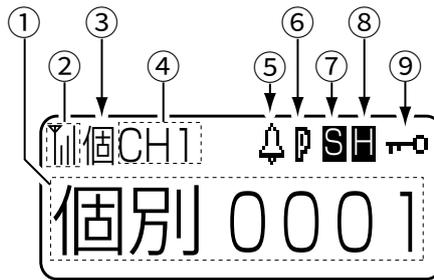
⑩ [PTT] (送信) スイッチ

[PTT] (送信) スイッチを押すと送信状態、はなすと待ち受け状態になります。

※電波法により、「連続送信(通話状態)」が5分を超えると、通話を自動的に切断します。(P.2-4)

1 各部の名称と機能

■ 表示部

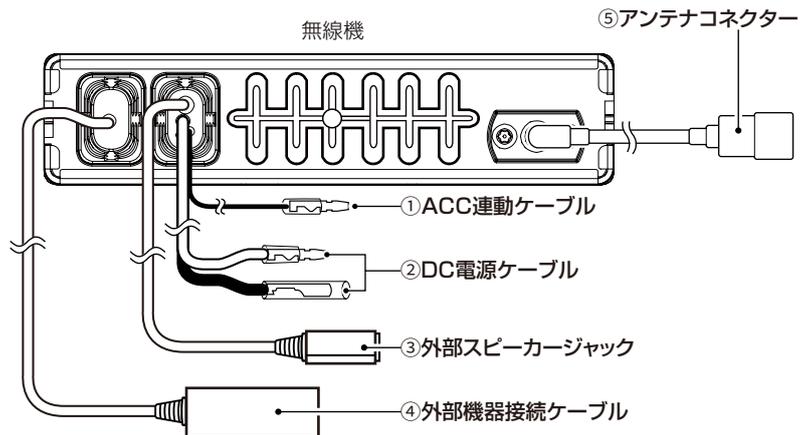


①	【個別番号/ 設定内容] 表示	音量、チャンネル番号、個別番号などを表示します。 ※設定モード、または詳細設定モードのときは、選択した設定項目を表示します。(P.7-1) また、ツマミを回すと、音量(0~32)を表示します。 ※チャンネルや個別番号に名称を設定する場合、またショートメッセージを表示させる場合はお買い上げの販売店にご依頼ください。
②		受信している電波の強度を、下図の3段階(目安)で表示します。  ※「↑」は、電源が入っているときは常に表示されています。
③	個	運用中の各モードを表示します。 個:個別 全:全体 基:基地 グ:グループ ※グループメンバー時は、[メ]が白黒反転表示します。
④	CH1	待ち受け中は、現在のチャンネル番号や秘話設定状態を表示します。 秘話設定時は、「CH」が白黒反転表示します。 また、画面によりショートメッセージ番号や「設定」(設定モード、詳細設定モード時)を表示します。

⑤		個別呼び出しを受けたとき点滅します。ポケットビープ機能が設定されているとき点灯します。
⑥		Pベル機能を「ON」に設定したとき表示します。
⑦		スキャン機能が動作中に点滅します。(P.6-3)
⑧		各通話チャンネルの送信出力設定を表示します。(P.6-5)  : ハイパワー(5W)選択時に点灯  : ローパワー(1W)選択時に点灯  : 上空用チャンネル(受信専用: S1 ~ S15)、または送信禁止★が設定された通話チャンネルを選択時に点灯 ★送信禁止の設定については、お買い上げの販売店にご依頼ください。
⑨		ロック機能が動作しているとき、表示します。(P.6-1)

1 各部の名称と機能

■ 後面部



① ACC連動ケーブル(青色)

自動車の鍵(エンジンスイッチ)の操作に連動して、本製品の電源を「入」/「切」できるようするときは、鍵をACC(アクセサリ)の位置で12V、または24Vになり、OFFの位置で0Vになるラインに接続します。

※ACCと連動させないときは、接続の必要はありません。
ほかの機器の端子などに接触しないように、ACC連動ケーブル先端の保護キャップ(黒色)を付けた状態でご使用ください。

② DC電源ケーブル

DC電源ケーブル(付属品)を使用して、12V/24V系のバッテリーと接続します。

※入力電圧に応じて、12V/24Vを自動認識します。
※卓上電源装置(別売品:PS-230A)と接続することもできます。(P.8-1)

【低電圧表示について】

供給されるDC電源電圧が低い場合は「低電圧」と表示され、警告音が鳴ります。

「低電圧」と表示されているあいだは、動作しません。

※動作範囲の電圧に戻るまで、無線機としての動作をしません。

③ 外部スピーカージャック

外部スピーカー(別売品:SP-30、SP-35)、または卓上電源装置(別売品:PS-230A)のスピーカープラグと接続します。(φ3.5mm/4Ω/モノラル)

※別売品のマイクロホン(AM-5、SM-28)を使用する場合は、外部スピーカの接続が必要です。

④ 外部機器接続ケーブル

将来的な機能拡張用(シリアルデータ通信など)にも使用します。

※データ通信を使用するには、お買い上げの販売店で、設定する必要があります。

⑤ アンテナコネクター

アンテナと接続します。(M型:50Ω)

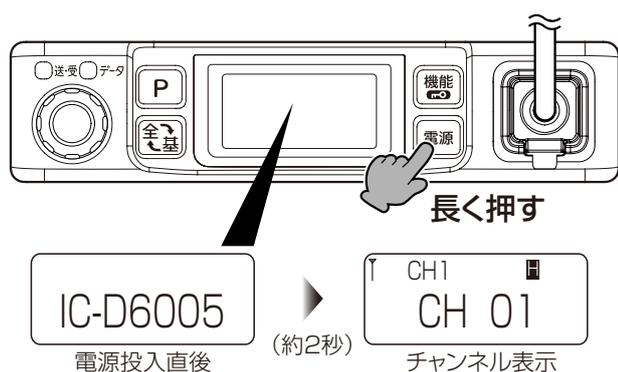
相手と同じ通話チャンネルに合わせるだけの簡単な通話のしかたについて説明しています。

1 電源を入れる

【電源】キーを長く(約1秒)押します。

- 「ピー」と鳴ります。

【電源を入れたときの表示】

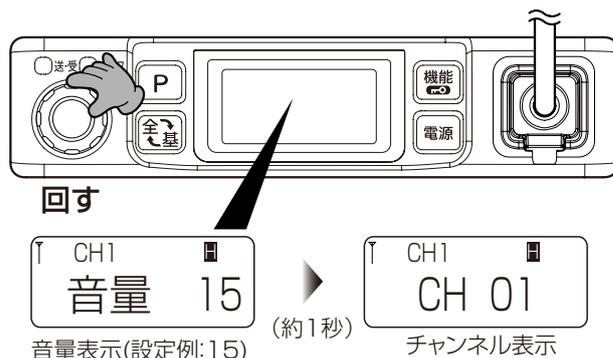


2 音量を調整する

ツマミを回すと、音量を調整できます。

相手の音声聞きやすい音量レベルに調整してください。

- 調整範囲: 0~32



詳細設定モードで、【P】(プログラム)キーの動作を「P長 モニタ」(P.7-6)に設定することで、【P】(プログラム)キーを押しているあいだ、【送・受】ランプが緑色に点灯します。「ザー」という音が出ますので、この音を聞いて調整できます。(P.6-1)

【ご注意】

音量が最小のときは、操作音(ビーブ音)、通話チャンネル番号案内の音声や受信した音声は、聞こえません。

【ご参考】チャンネル番号音声案内機能について

電源を入れたときや、チャンネル番号を変更したとき、選択された通話チャンネル番号を読み上げます。

※使用しないときは、詳細設定モードの【チャンネル番号音声案内】項目で設定を「OFF」にできます。

2 通話のしかた

3 通話チャンネルを合わせる

①【機能/PTT】キーを短く押します。

- 表示(例:CH5)が点滅します。

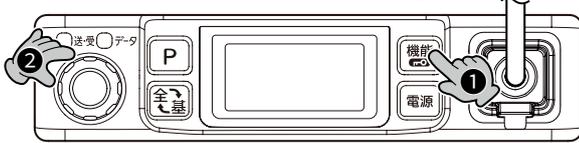


②ツマミを回して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。

- 選択範囲:01~14、16~82

②回す

①押す



※通話チャンネルとは、通話に使用する周波数のことです。

相手と通話チャンネルが異なるときは、通話できません。

【呼出用チャンネルについて】

呼出用チャンネル(CH15)は、「呼出CH」と表示します。

このチャンネルは、一時的な呼び出しにだけ使用しますので、グループ通話(P.3-1)や秘話機能(P.4-1)、個別呼び出し機能(P.5-1)による通話に使用できません。

「呼出CH」で呼び出した相手と通話をつづける場合は、空いている通話チャンネル(CH01~CH14、CH16~CH82)に変更してから通話してください。

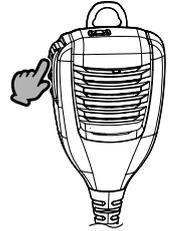


4 [PTT] (送信) スイッチを押す

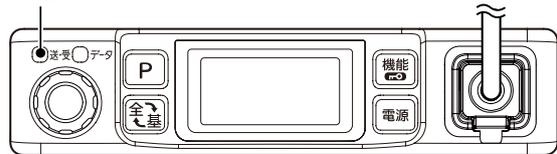
[PTT] (送信) スイッチを押しながら、マイクに向かって通話相手に呼びかけます。

押しつづける

- [PTT] (送信) スイッチを押しているあいだは、[送・受] ランプが赤色に点灯します。



赤色に点灯



【マイクの使いかた】

マイクと口元を約5cmはなし、普通の大きさの声で通話してください。

マイクに口を近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって相手に聞こえにくくなりますのでご注意ください。

【ご参考】

- ◎ [送・受] ランプが緑色に点灯中は、混信防止機能 (P.2-4) によって送信できない場合があります。
- ◎ [PTT] (送信) スイッチを押したとき、「ピッ」と鳴ったら、通話相手に呼びかけてください。

2 通話のしかた

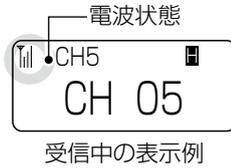
5 相手の音声を受信する

[PTT] (送信) スイッチをはなすと待ち受け状態になり、相手局が送信すれば、受信した音声聞こえます。

受信中は、[送・受] ランプが緑色に点灯します。

また、電波の受信状態(P.1-2)を表示部に表示します。

待ち受け状態のときは、[送・受] ランプが消灯しています。



通話相手以外の電波(同じ通話チャンネルで誰かが通話中)を受信しているときも、[送・受] ランプが緑色に点灯し、電波の受信状態を表示します。

6 通話をつづける

送信と受信は交互にします。

※相手が送信しているときは、[PTT] (送信) スイッチを押しても混信防止機能(P.2-4)が動作して、「プップッ…」と鳴りつづけて、送信できません。

相手の通話が終了してから、送信してください。

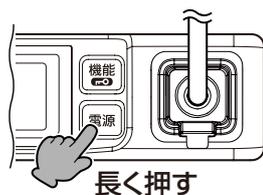
※送信の終わりに「どうぞ」を付け加えると、互いの会話がスムーズになります。



7 電源を切る

[電源] キーを長く(約1秒)押しします。

- 電源を切る前の通話チャンネルを記憶して電源が切れます。



※表示内容を変更後に電源を切るときは、2秒以上経過してから電源を切ってください。

電源を切る前の状態が記憶されないことがあります。

2 通話のしかた

■ 通話するときのアドバイス

1. 送信時間制限装置について

1回の送信で連続して通話できる時間は、「5分以内」と電波法で定められています。

制限時間の10秒前になると、「ピッ」と鳴ります。

連続通話時間が5分になると、警告音が「ブッ」と鳴って、自動的に送信を停止します。

※送信を自動停止すると、1分間は通話できません。

通話を再開する場合は、1分後に【PTT】(送信)スイッチを押してください。

2. 混信防止(キャリアセンス)機能について

無線局の運用では、同じ通話チャンネルで自分が送信中のときにほかの人が送信すると混信を受け通話ができない場合があります。

また、逆にほかの人が通話中のチャンネルで送信すると、その通話を妨害することになります。

このような混信を防止するために、同じチャンネルで一定レベルの電波を本製品が受信している場合は、通話中とみなし、送信できないよう、自動的に制御する機能をキャリアセンスといいます。

キャリアセンスは、本製品が送信を開始するときに動作します。

3秒以上通話が途切れた場合、本製品が通話を終了したと判断し、次の送信開始時からキャリアセンスの機能が動作します。

なお、ほかの電子機器からの電波を受信した場合(混信や妨害波を含む)についてもキャリアセンスが動作し送信できないことがありますが、故障ではありません。

本製品は、電波法によりこのキャリアセンスの搭載が義務付けられています。

3. 電波干渉について

比較的せまいエリアで、多くの局が通話するような状態では、電波の干渉(相互変調)による混信が発生することがあります。

このような混信は、グループごとに[通話チャンネル]の組み合わせを適切に設定することで防止できます。

4. 通話範囲について

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信しにくくなる場合があります。

◇通話範囲は、周囲の建物などの状況により異なりますので、下記の数値を目安に通話してください。

(送信出力:5W時)

見通しのよい場所 :約10km

市街地や建物内 :約1~3km

◇通話範囲であっても、山や建物などが障害物となつて、通話しにくくなる場合があります。

そのときは、場所を少し移動して通話してください。

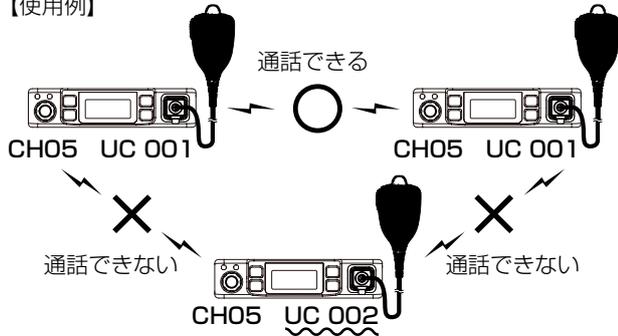
また、テレビやラジオなどの家電製品、パソコン、および電話機などの近くで使用すると、雑音が発生したり、誤動作したりすることがありますので、はなれてご使用ください。

3

簡単なグループ通話のしかた

複数の通話相手と同じユーザーコード(UC)を設定するだけで、通話グループが簡単に構成できます。通話チャンネル(P.2-2)とユーザーコードが一致したすべての相手と通話できます。

【使用例】



※秘話機能や個別呼び出し機能とも併用できます。
 ※「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)選択時は、ユーザーコードを使用できないため、本章の操作はできません。

【ご参考】ユーザーコードの設定方法変更について

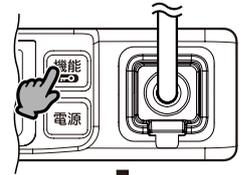
通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH82)ごとに異なるユーザーコードを使用する場合は、「■ チャンネル毎にユーザーコードを設定して通話するには」(P.3-2)でユーザーコードの設定を変更してください。

■ ユーザーコードを設定して通話するには

1 通話チャンネルを合わせる

①【機能/電源】キーを短く押します。

●表示(例:CH5)が点滅します。

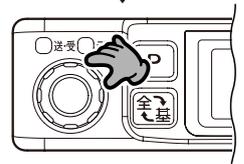


②ツマミを回して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。

●選択範囲:01～14、16～82

※CH01からCH82を選択したとき、またはCH82からCH01を選択したときに、「ピピッ」と鳴ります。

※ユーザーコードは、表示しません。



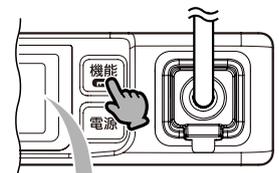
2 UC(ユーザーコード)表示にする

【機能/電源】キーを繰り返し短く押して、「グループ OFF」(初期設定時)表示を選択します。

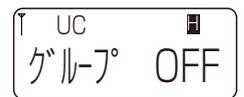
●「CH 05」(CH5点滅)→「グループ OFF」→「CH 05」の順に切り替わります。

※表示を切り替えてから、何も操作しない状態(約10秒)になると、「通話チャンネル」表示に戻ります。

※「グループ OFF」の場合、ユーザーコードを使用して通話する相手の音声は聞こえますが、自分の音声は、ユーザーコードを設定している相手には聞こえません。



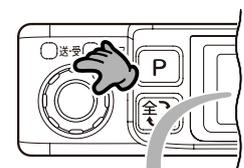
繰り返し短く押す



3 ユーザーコードを設定する

ツマミを回して、通話する相手と同じユーザーコード(例:001)を設定します。

● 選択範囲:OFF(000)、001～511



3 簡単なグループ通話のしかた

■ ユーザーコードを設定して通話するには
(つづき)

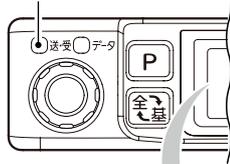
4 [PTT] (送信) スイッチを押す

[PTT] (送信) スイッチを押しながら、マイクに向かって通話相手に呼びかけます。

- [PTT] (送信) スイッチを押しているあいだは、[送・受] ランプが赤色に点灯します。



押しつづける
赤色に点灯



5 相手の音声を受信する

[PTT] (送信) スイッチをはなすと待ち受け状態に戻ります。相手局が送信した電波を受信すれば、音声聞こえます。受信中は、[送・受] ランプが緑色に点灯します。

また、電波の受信状態(P. 1-2)を表示部に表示します。

待ち受け状態のときは、[送・受] ランプが消灯します。

※通話相手以外(同じ通話チャンネルで、異なるユーザーコードを使用して通話している)の電波を受信しているときも、[送・受] ランプが緑色に点灯し、電波の受信状態を表示します。



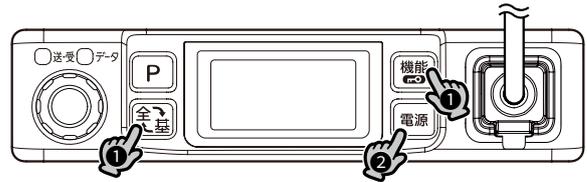
受信中の表示例

■ チャンネル毎にユーザーコードを設定して通話するには

通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用できます。

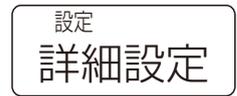
1 詳細設定モードにする

- ① 本製品の電源を切ります。
- ② [全⇄基] キーと[機能/電源] キーを同時に押しながら、[電源] キーを押しつづけます。



①を同時に押しながら、②を長く押す

- ② 「詳細設定」と表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。



- 「Pビープ」が表示されます。

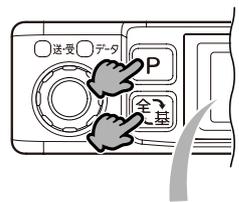
※詳細設定モードに移行しているときは、呼び出しを受信できません。



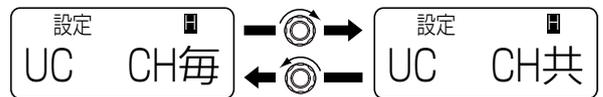
※この章の説明で使用する設定値は、3-1ページの図の【使用例】に記載の値を使用しています。

2 「UC CH毎」を選択する

- ① [P] (プログラム) キー、または [全⇄基] キーを繰り返し短く押して、「UC CH共」(初期設定時) 表示を選択します。



- ② ツマミを回して、「UC CH毎」を選択します。



通話チャンネルごと

通話チャンネル共通

3 簡単なグループ通話のしかた

■ チャンネル毎にユーザーコードを設定して通話するには(つづき)

3 ユーザーコードを設定する

① [P] (プログラム) キーを短く押し、「01 OFF」(初期設定時)表示を選択します。

- チャンネル番号が点滅します。

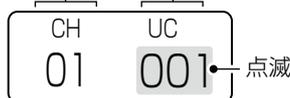
② ツマミを回して、チャンネル番号を選択します。

- 選択範囲: 01~82

③ [P] (プログラム) キーを短く押し、ユーザーコードの編集状態になります。

- ユーザーコードが点滅します。

チャンネル番号 ユーザーコード



[P]キーを短く1回押したとき

④ ツマミを回して、ユーザーコードを選択します。

- 選択範囲: OFF(000)、001~511

※ほかのチャンネル番号のユーザーコードも編集するときには、①~④を繰り返します。

※**[全基]**キーを押すと、チャンネル番号編集状態に戻ります。

4 選択した設定方法に変更する

[PTT] (送信) スイッチを押します。

- 詳細設定モードが解除され、ユーザーコードが変更されます。



5 通話チャンネルを合わせる

① **[機能/電源]** キーを短く押します。

- 表示(例: CH5)が点滅します。

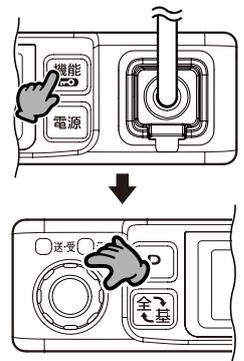


通話チャンネル表示
(表示例: 5チャンネル)

② ツマミを回して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。

- 選択範囲: 01~14、16~82

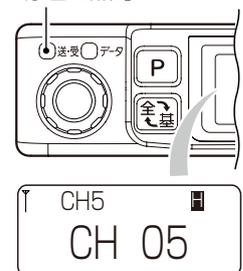
※CH01からCH82を選択したとき、またはCH82からCH01を選択したときに、「ピピッ」と鳴ります。



6 [PTT] (送信) スイッチを押す

[PTT] (送信) スイッチを押しながら、マイクに向かって通話相手に呼びかけます。

- [PTT] (送信) スイッチを押しているあいだは、**[送・受]** ランプが赤色に点灯します。



7 相手の音声を受信する

[PTT] (送信) スイッチをはなすと待ち受け状態に戻ります。相手局が送信した電波を受信すれば、音声聞こえます。

受信中は、**[送・受]** ランプが緑色に点灯します。

また、電波の受信状態(P.1-2)を表示部に表示します。待ち受け状態のときは、**[送・受]** ランプが消灯します。

※通話相手以外(同じ通話チャンネルで、異なるユーザーコードを使用して通話している)の電波を受信しているときも、**[送・受]** ランプが緑色に点灯し、電波の受信状態を表示します。

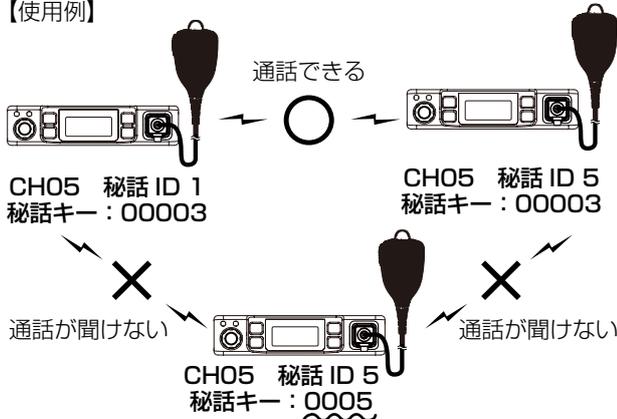


4 盗聴防止を設定するには

秘話機能を使用すると、ほかの相手に通話内容が傍受されるのを防止できます。

通話チャンネルと秘話IDに設定された秘話キーが一致した相手と通話できます。

【使用例】



※秘話ID(1~20)ごとに異なる秘話キー(00001~32767)を設定できます。

※秘話キーが同じ相手であれば、秘話IDが異なる場合でも通話できます。

※ユーザーコードや個別呼び出し機能による通話時も併用できます。

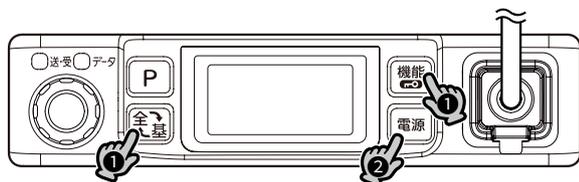
【「呼出CH」選択時のご注意】

「呼出CH(CH15)」は、呼出用チャンネルのため、設定した秘話機能が無効になります。

■ 秘話機能を設定するには

1 詳細設定モードにする

- ① 本製品の電源を切ります。
- ② **[全⇄基]** キーと**[機能/電源]** キーを同時に押しながら、**[電源]** キーを押しつづけます。

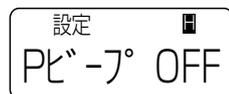


①を同時に押しながら、②を長く押し

- ③「**詳細設定**」と表示され、「ピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。

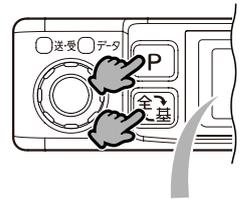


- 「Pビープ」が表示されます。
- ※詳細設定モードに移行しているときは、呼び出しを受信できません。
- ※この章の説明で使用する設定値は、上図の【使用例】に記載の値を使用しています。



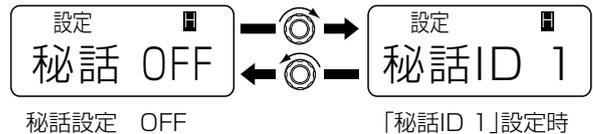
2 秘話IDを選択する

- ① **[P]** (プログラム) キー、または**[全⇄基]** キーを繰り返し短く押し、「秘話 OFF」(初期設定時)表示を選択します。



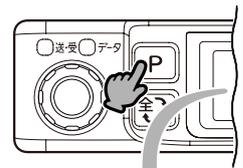
- ② ツマミを回して、秘話IDを選択します。

- 選択範囲：OFF、ID1~ID20



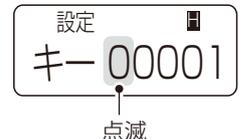
3 秘話キーを設定する

- ① **[P]** (プログラム) キーを長く押し、「キー 00001」(初期設定時)表示を選択します。



- 秘話キーを表示して、編集できる桁が点滅します。

- ② ツマミを回して、秘話キーを選択します。



- 選択範囲：00001~32767

※ほかの桁も編集するときには、**[P]** (プログラム) キー、または**[全⇄基]** キーを短く押しと編集できる桁が点滅します。

- ③ **[P]** (プログラム) キーを長く押し、内容を確定します。
- 「秘話 ID」表示に変わります。

4 選択した設定を有効にする

[PTT] (送信) スイッチを押します。

- 詳細設定モードが解除され、秘話機能の設定が有効になります。
- 「ピッ」と鳴って、「**CH**」表示になります。



CH 表示に変化



通話チャンネル表示
(表示例：5チャンネル)

4 盗聴防止を設定するには

■ 秘話機能を使用して通話するには

秘話機能を使用して通話をする手順です。

※4-1ページで、秘話IDに設定した秘話キーを下記で選択した通話チャンネルに使用できます。

【ご注意】

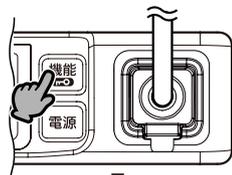
機密を要する重要な通話にご使用になることは、おすすめできません。

また、無線機間の通話は、電波を使用している関係上、第三者による盗聴を完全に阻止できませんので、ご注意ください。

1 通話チャンネルを合わせる

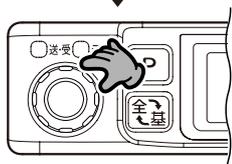
①【機能/PTT】キーを短く押します。

- 表示(例:CH5)が点滅します。



②ツマミを回して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。

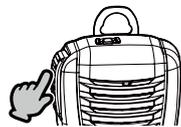
- 選択範囲:01~14、16~82
- ※CH01からCH82を選択したとき、またはCH82からCH01を選択したときに、「ピピッ」と鳴ります。



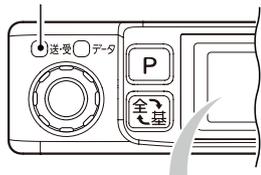
2 【PTT】(送信)スイッチを押す

【PTT】(送信)スイッチを押しながら、マイクに向かって通話相手に呼びかけます。

- 【PTT】(送信)スイッチを押しているあいだは、【送・受】ランプが赤色に点灯します。



押しつづける
赤色に点灯



3 相手の音声を受信する

【PTT】(送信)スイッチをはなすと待ち受け状態に戻ります。

自分と同じ秘話キーの相手局、または秘話機能を使用しない他局が送信した電波を受信すれば、音声聞こえます。

受信中は、【送・受】ランプが緑色に点灯します。

また、電波の受信状態(P.1-2)を表示部に表示します。

待ち受け状態のときは、【送・受】ランプが消灯します。



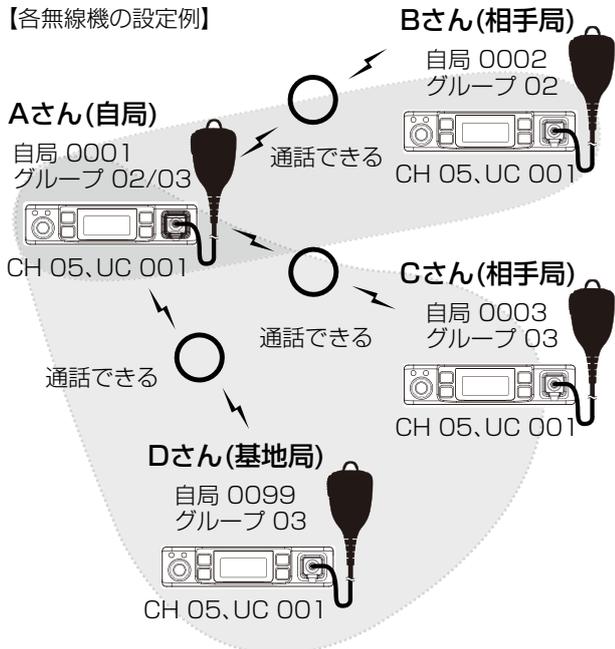
通話相手以外(同じ通話チャンネルで、異なる秘話キーを使用して通話している)の電波を受信しているときも、【送・受】ランプが緑色に点灯し、電波の受信状態を表示します。

※他局が自分と異なる秘話キーを使用している場合は、秘話処理された電子音が聞こえます。

■ 呼び出しかたの種類について

個別呼び出し機能を使用した呼び出しかたの種類について、下図を例に説明します。

【各無線機の設定例】



図の■は、Aさん(自局)が呼び出しできるグループを意味します。

呼び出しかたには、次の4種類の方法があります。

◎ 全体呼び出し



全体呼び出し表示

通話チャンネル(使用例:CH 05)とユーザーコード(使用例:UC 001)が同じ相手局(使用例:Bさん/Cさん/Dさん)を一斉に呼び出します。

◎ 基地局呼び出し



基地局呼び出し表示

通話チャンネル(使用例:CH 05)とユーザーコード(使用例:UC 001)が同じで、呼び出す基地局(使用例:Dさん)の自局番号(使用例:0099)を指定して呼び出します。

◎ 個別呼び出し



個別呼び出し表示

通話チャンネル(使用例:CH 05)とユーザーコード(使用例:UC 001)が同じで、呼び出す相手局(使用例:Bさん)の自局番号(使用例:0002)を指定して呼び出します。

◎ グループ呼び出し



グループ呼び出し表示

通話チャンネル(使用例:CH 05)とユーザーコード(使用例:UC 001)が同じで、メンバー指定(P.7-4)されたグループ番号(使用例:グループ 03)に所属するすべての相手(使用例:Cさん/Dさん)を呼び出します。

【「呼出CH」表示での機能制限について】



呼出用チャンネル表示

CH15は、呼出用チャンネルで、「呼出CH」と表示されます。

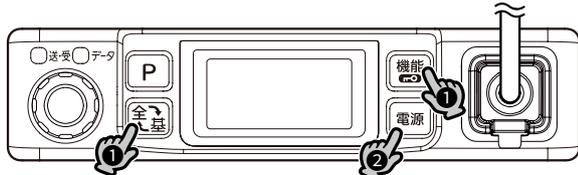
「呼出CH」表示のときは、グループ通話(P.3-1)や秘話機能(P.4-1)、個別呼び出し機能による通話に使用できません。

5 個別呼び出し機能による通話

■ 個別呼び出し機能を設定するには
通話に使用するすべての無線機で設定が必要です。

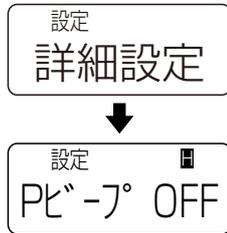
1 詳細設定モードにする

- ① 本製品の電源を切ります。
- ② **【全⇄基】**キーと**【機能/⇄】**キーを同時に押しながらか、**【電源】**キーを押しつづけます。



①を同時に押しながらか、②を長く押し

- ③「**詳細設定**」と表示され、「**ピッ**」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。
 - 「**P**ビープ」が表示されます。
- ※ 詳細設定モードに移行しているときは、呼び出しを受信できません。
※ この章の説明で使用する設定値は、5-1ページの【使用例】に記載の値を使用しています。



3 自局番号を設定する

自局番号とは、自分が個別呼び出しを受けるための番号です。

- ① **【P】**(プログラム)キー、または**【全⇄基】**キーを繰り返し短く押して、「**自局 0001**」(初期設定時)表示を選択します。
- ② **ツマミ**を回して、自局番号を設定します。
 - 選択範囲:0001~0245



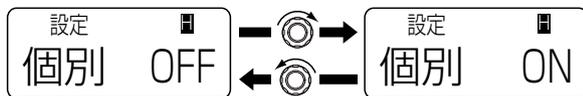
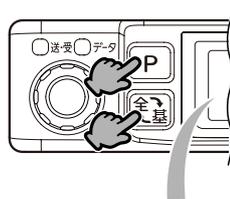
自局番号表示
(表示例:0001)

【設定例】

個別呼び出し機能で使用するすべての無線機(使用例:Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)に設定してください。
Aさん(自局) :0001 Bさん(相手局):0002
Cさん(相手局):0003 Dさん(基地局):0099

2 個別呼び出し機能を「ON」にする

- ① **【P】**(プログラム)キー、または**【全⇄基】**キーを繰り返し短く押して、「**個別 OFF**」(初期設定時)表示を選択します。
- ② **ツマミ**を回して、「**個別 ON**」を選択します。



個別呼び出し機能OFF

個別呼び出し機能ON

※ 個別呼び出し機能で使用するすべての無線機(使用例:Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)に設定してください。

4 基地局番号を設定する

基地局番号とは、基地局として指定された局の番号です。

- ① **【P】**(プログラム)キー、または**【全⇄基】**キーを繰り返し短く押して、「**基地 0099**」(初期設定時)表示を選択します。
- ② **ツマミ**を回して、基地局番号を設定します。
 - 選択範囲:0001~0245



基地局番号表示
(表示例:0099)

5 個別呼び出し機能による通話

■ 個別呼び出し機能を設定するには(つづき)

5 グループ呼び出しを設定する

ここで指定したグループ番号の相手から呼び出しがあったとき、着信を許可するグループ番号を指定します。

① **[P]**(プログラム)キー、または**[全呼基]**キーを繰り返し短く押し、「グループ 0001」(初期設定時)表示を選択します。



② ツマミを回して、指定するグループ番号を選択します。

- 選択範囲:0001~0010

③ 選択したグループ番号(例:グループ 0002)を表示した状態で、**[機能/呼出]**キーを長く押しします。



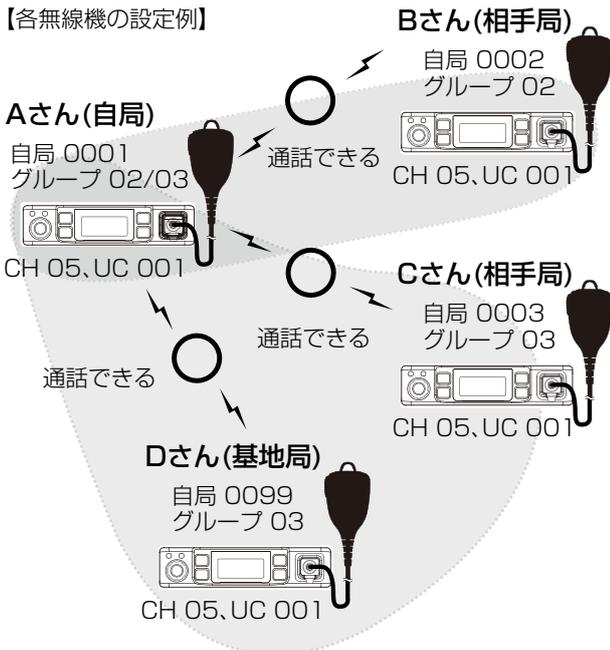
- メンバー指定を意味する を表示します。
- ※ 複数のグループからの呼び出しを受けるときは、②と③の操作を繰り返します。

【メンバー指定するグループ番号の例】

グループ呼び出しで使用するすべての無線機(使用例:Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)にメンバー指定してください。

- Aさん(自局) :グループ0002/グループ0003
- Bさん(相手局) :グループ0002
- Cさん(相手局) :グループ0003
- Dさん(基地局) :グループ0003

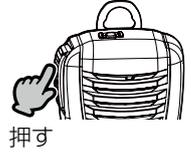
【各無線機の設定例】



図の■は、Aさん(自局)が呼び出しできるグループを意味します。

6 変更した設定値を確定する

2~5のステップで変更した設定値を確定するために、**[PTT]**(送信)スイッチを押します。



- 詳細設定モードが解除され、「IC-D6005」が表示されたあと、設定した自局番号(約1秒)が表示されます。

※設定変更後、**[P]**(プログラム)キー、または**[全呼基]**キーを押して、電源を入れなおしても、設定値が確定されます。

【自局番号表示例】



★自局番号表示後に表示される内容は、電源を切る前の表示(通話チャンネル/個別番号/グループ番号)によって異なります。

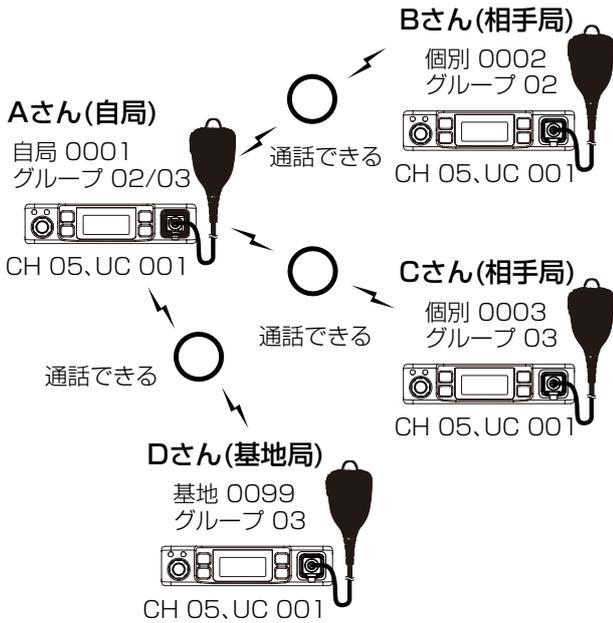
5 個別呼び出し機能による通話

■ 個別呼び出し機能で通話するには

個別番号(相手の自局番号)やグループ番号を指定して相手局と通話する方法について、説明します。

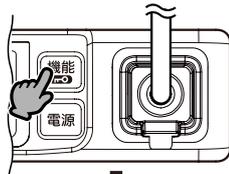
※個別呼び出し機能がすべての無線機に設定(P.5-2~P.5-3)されているものとして説明しています。

【Aさんから呼び出す場合の設定例】

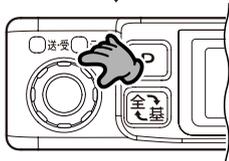


1 通話チャンネルを合わせる

- ①【機能/電源】キーを短く押します。
●表示(例:CH5)が点滅します。



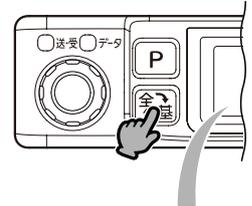
- ②ツマミを回して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。
●選択範囲:01~14、16~82



2 個別番号を合わせる

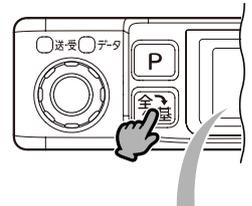
▶全体を呼び出すときは

【全⇄基】キーを繰り返し短く押し、「全体」表示を選択します。
※左図に記載されたBさん/Cさん/Dさんを一斉に呼び出すとき、選択します。



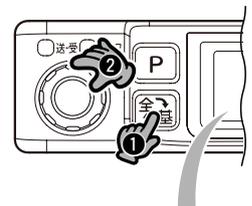
▶基地局を呼び出すときは

【全⇄基】キーを繰り返し短く押し、「基地局番号」表示(例:基地0099)を選択します。
※左図に記載されたDさん(基地局)を呼び出すとき、選択します。



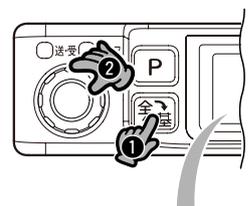
▶1局を呼び出すときは

- ①【全⇄基】キーを繰り返し短く押し、「個別番号」(例:個別0002)表示を選択します。
- ②ツマミを回して、相手の自局番号(例:0002)に合わせます。



▶グループを呼び出すときは

- ①【全⇄基】キーを繰り返し短く押し、「グループ番号」(例:グループ0001)表示を選択します。
- ②ツマミを回して、呼び出しをする相手のグループ番号(例:グループ0002)に合わせます。



5 個別呼び出し機能による通話

■ 個別呼び出し機能で通話するには(つづき)

3 呼び出す

① 呼び出す相手の番号が選択されていることを確認します。

- ◎ 全体呼び出しをする場合
「全体」表示(例:CH5)



全体呼び出し表示

- ◎ 基地局呼び出しをする場合
「基地局」表示
(例:基地0099)



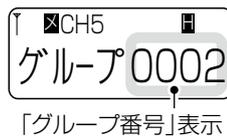
「基地局番号」表示

- ◎ 個別呼び出しをする場合
「個別番号」表示
(例:個別0002)



「個別番号」表示

- ◎ グループ呼び出しをする場合
「グループ番号」表示
(例:グループ 0002)



「グループ番号」表示

② [PTT] (送信) スイッチを押しながら、マイクに向かって通話相手に呼びかけます。

- [送・受] ランプが赤色に点灯します。



【グループ呼び出しの特長】

同じグループ番号でメンバー指定(☑)を設定している受信局だけが、送信局からの音声聞こえます。

呼び出しを受けると、個別番号とグループ番号を交互に点滅します。

グループ呼び出しに応答するには、グループ番号と個別番号が交互に点滅しているあいだに、[PTT] (送信) スイッチを押します。

終話するまでのあいだに、送信と受信を交互にすることで、通話をつづけられます。

- 呼び出されたときの表示



グループ番号を点滅表示

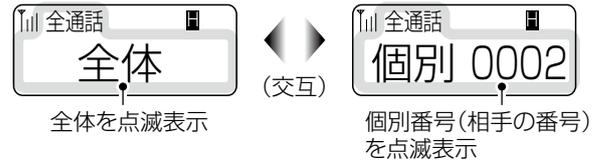
個別番号(相手の番号)を点滅表示

4 呼び出しを受ける

呼び出しを受けたときは、下図の表示状態で[PTT] (送信) スイッチを押すと、応答できます。

- ◎ 全体呼び出しを受けたとき

全体と個別番号を交互に点滅表示します。



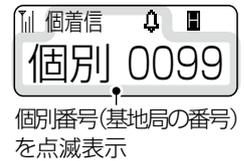
全体を点滅表示

個別番号(相手の番号)を点滅表示

- ◎ 基地局から呼び出しを受けたとき

基地局番号を点滅表示します。ポケットビープ機能や呼び出しメロディー、または呼出着信音が設定されているときは、設定されたビープ音やメロディー音が鳴ります。(P.6-4、P.7-3)

※応答すると、「着信」→「通話」表示に変わります。

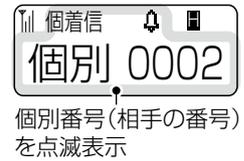


個別番号(基地局の番号)を点滅表示

- ◎ 個別呼び出しを受けたとき

個別番号を点滅表示します。ポケットビープ機能や呼び出しメロディー、または呼出着信音が設定されているときは、設定されたビープ音やメロディー音が鳴ります。(P.6-4、P.7-3)

※応答すると、「着信」→「通話」表示に変わります。



個別番号(相手の番号)を点滅表示

- ◎ グループ呼び出しを受けたとき

個別番号とグループ番号を交互に点滅表示します。



グループ番号を点滅表示

個別番号(相手の番号)を点滅表示

■ ロック機能

電源を入れなおしたり、不用意に無線機のキーやツマミに触れたりしても、設定や表示が変わらないようにします。

【操作のしかた】

【機能/電源】キーを長く(約1秒)押します。

●「ピピッ」と鳴って、を表示します。

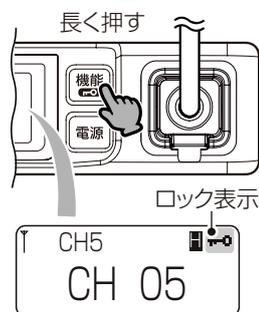
※同じ操作をすると、解除できます。

〈ロック中にできる操作〉

- ◎ロック機能の解除
- ◎送信/受信の切り替え
- ◎電源のON/OFF

※ロック中の音量調整については、詳細設定モードでロックを解除できます。(P.7-7)

※エマージェンシーの設定が「ON」の場合は、キーロック中でも緊急呼び出しの操作ができます。



■ 受信電波強度通知機能

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信信号の強度が弱くなり、相手の音声が届かなくなるなどして、通話がつづけられない状態になると、「ピンポン」と鳴ります。

※警告音が鳴ったときは、場所を少し移動して通話してください。

受信信号の強度が強くなり、ふたたび信号を受信できるようになると、ピープ音(ピンポン)は止まります。

※工場出荷時やユーザーリセット時の状態では、使用できません。

詳細設定モードから設定を変更できます。(P.7-1)

■ モニター機能

モニター機能は、次のような場合に使用します。

◎受信音がない状態で、「ザー」という音を聞きながら音量を調整するとき

◎ユーザーコード、個別番号、グループ番号が異なる他局の通話を聞くととき

※他局が秘話機能を使用している場合は、秘話処理された電子音が聞こえるだけです。

※モニター機能を使用しない場合は、詳細設定モードで、【P】(プログラム)キーの動作を変更できます。

【操作のしかた】

【P】(プログラム)キーを押しているあいだ、動作します。



■ 拡声器機能

【P】(プログラム)キーに拡声器機能が設定されていると、本製品を拡声器として使用できます。

※拡声器機能をお使いになるには、必ず外部スピーカー(別売品:SP-30、SP-35)を無線機に接続してください。

また、マイクロホンの本製品に接続してください。

※拡声器機能がONの状態では、自局宛ての呼び出しを受信したときは、拡声器機能が解除され、通常の通話ができます。

※呼び出しを受信したとき、相手の音声が無線機に接続されたマイクロホンから聞けるように、設定モードの【スピーカー出力】項目を「ON」、または「FMIC」に設定することをおすすめします。(P.7-7)

【操作のしかた】

詳細設定モードで「P短」(【P】(プログラム)キーを短く押したときの設定)を「拡声」に設定したものと説明します。(「P長」での設定もできます。)

①【P】(プログラム)キーを短く押します。

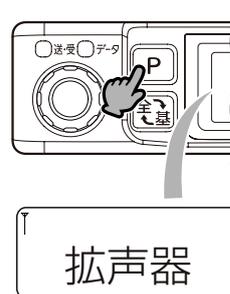
●「拡声器」を表示します。

②【PTT】(送信)スイッチを押しながら、マイクに向かって話します。

●【送・受】ランプは点灯しません。

●外部スピーカーから、音声が出力されます。

※音声は、送信されません。



③無線で呼び出したい場合は、【P】(プログラム)キーを短く押します。

●拡声器が解除されます。

※拡声器の使用中は、呼び出しができません。

6 そのほかの機能について

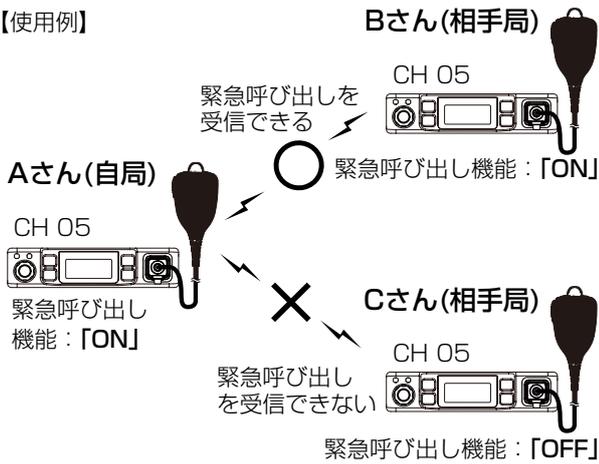
■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)

個別呼び出し機能による通話で、迅速な連絡が必要な場合、自分と同じ通話チャンネルで緊急呼び出し機能が設定された相手に、緊急表示と警告音で通知できます。

※工場出荷時やユーザーリセット時の状態では、使用できません。

緊急呼び出し機能の設定は販売店にご依頼ください。

【使用例】



△警告

緊急呼び出し機能(エマージェンシー)は、大きな音量の警告音が連続で鳴ります。
ツマミを回して、音量が適切な位置になっていることを確認してください。

【緊急呼び出し機能を正しく使用するには】

個別呼び出し機能(P.5-1)と緊急呼び出し機能の両方を送信側と受信側の無線機に設定してください。

設定されていないときは、緊急呼び出しの受信、または応答ができません。

下記のような場合、正しく設定されていても緊急呼び出しが通知されなかったり、通知されても警告音が鳴らなったりすることがあります。

- ◎音量が最小に設定されている場合
- ◎電波状況の悪化により電波が届かない場合
- ◎「呼出CH(CH15)」を選択している場合
- ◎「上空用チャンネル(S1~S15)」を選択している場合
- ◎混信防止機能(P.2-4)により送信制限された場合
- ◎メモリーチャンネルスキャン機能が動作中の場合

ご注意

本製品に搭載されている緊急呼び出し機能は、周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)など、周囲の環境によっては、通信できないこともありますので、高度な信頼性が必要な用途に使用されることを目的としていません。

補助的な使用を目的とした機能としてご理解ください。

緊急呼び出し機能を使用できないことが原因で発生したいかなる損害についても、弊社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

【緊急呼び出しのしかた】

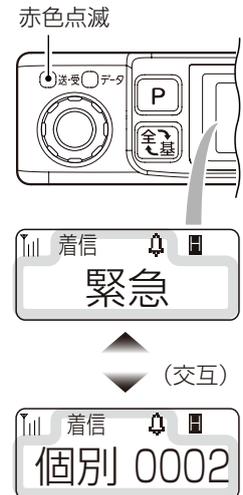
下記の操作をすると、個別呼び出し機能が設定された自分と同じ通話チャンネルの相手へ一斉に緊急呼び出しします。

- ①緊急呼び出しをする相手と同じ通話チャンネル番号を選択します。
- ②「緊急」が表示されるまで、マイクロホンの「緊急呼び出し」キーを長く(5秒以上)押します。
 - 「緊急」表示の点滅と同時に、警告音が「ピピピ…」と鳴って、一定の間隔ごとに「送・受」ランプが赤色に点灯します。
- ③その状態で、相手局から応答があるのを待ちます。
 - 応答があると、「緊急」表示が消え、警告音が停止して、「送・受」ランプが緑色に点灯します。
- ④通話をつづけます。
 - 終話すると、緊急呼び出しをする前の状態に戻ります。



【緊急呼び出しを受けたときは】

- ①警告音が「ピピピ…」と鳴って、「送・受」ランプが赤色に点滅します。また、「緊急」と「相手局番号」を交互に表示します。
- ②【PTT】(送信)スイッチを押して、応答します。
 - 応答すると、「相手局番号」表示が変わり、警告音が停止します。
- ③通話をつづけます。
 - 終話すると、緊急呼び出しを受信する前の状態に戻ります。



(個別0002は表示例です)

※緊急呼び出しを受けても応答しない場合は、電源を切ると緊急呼び出しが停止します。

6 そのほかの機能について

■ プライベートチャンネル機能

特定の通話チャンネルをプライベートチャンネル(例:呼出CH)に設定することで、よく利用する通話チャンネル(例:CH 05)との切り替えが簡単になります。

※工場出荷時やユーザーリセット時の状態では、使用できません。

操作をする前に、詳細設定モードで、**[P]**(プログラム)キーの動作(P.7-6)を「P短 P-CH」、または「P長 P-CH」に設定してください。

※工場出荷時やユーザーリセット時、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)がプライベートチャンネルに設定されています。

詳細設定モードから設定を変更できます。(P.7-1)

※プライベートチャンネル番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、**[P]**(プログラム)キーの操作は無効です。

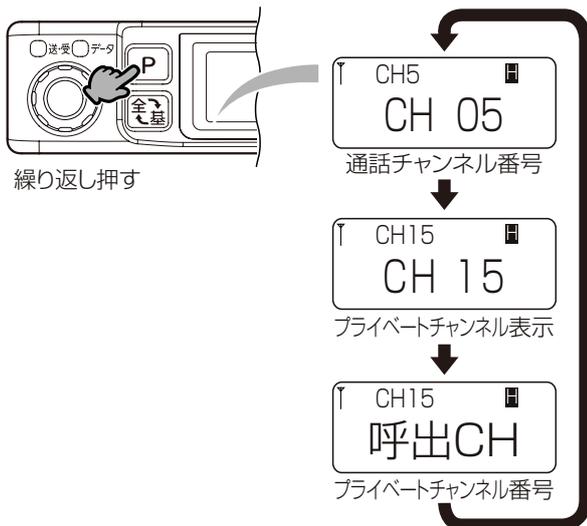
【操作のしかた】

◎「P長 P-CH」に設定した場合

[P](プログラム)キーを長く(約1秒)押すごとに、通話チャンネル(例:CH 05)とプライベートチャンネル(例:呼出CH)が切り替わります。

◎「P短 P-CH」に設定した場合

[P](プログラム)キーを短く押すごとに、通話チャンネル(例:CH 05)とプライベートチャンネル(例:呼出CH)が切り替わります。



■ プライベートチャンネルスキャン機能

よく利用する通話チャンネル(例:CH 05)を受信しながら、プライベートチャンネル番号(例:呼出CH)を一定の時間ごとに受信(監視)できます。

※工場出荷時やユーザーリセット時の状態では、使用できません。

操作の前に、詳細設定モードで、**[P]**(プログラム)キーの動作を「P短 PRI」、または「P長 PRI」に設定してください。(P.7-6)

【操作のしかた】

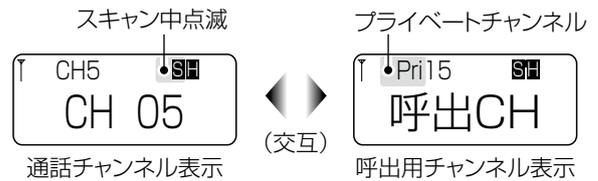
◎「P長 PRI」に設定した場合

[P](プログラム)キーを長く(約1秒)押します。

◎「P短 PRI」に設定した場合

[P](プログラム)キーを短く押します。

「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)をプライベートチャンネルに設定したときは、下記のように切り替わります。



【プライベートチャンネルスキャンを解除するには】

[全基]キー、または**[機能/⌂]**キーを押します。

※スキャン開始と同じ操作でもスキャンを解除できます。

※電源を入れなおしても、解除されません。

【プライベートチャンネルスキャンの動作について】

◎プライベートチャンネルスキャン中は**[S]**が表示され点滅します。

◎プライベートチャンネル番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、スキャンしません。

◎スキャン中は、通話チャンネルで待ち受け中、2秒ごとにプライベートチャンネルをスキャンします。スキャン中に緊急呼び出しをすると、スキャン動作を解除して、通話チャンネルで緊急信号を送信します。

◎電波を受信中は、詳細設定モードのスキャン停止時間とスキャン再開時間の設定にしたがってスキャンします。(P.7-6、P.7-7)

このとき、緊急呼び出しをすると、スキャン動作が解除されます。

◎プライベートチャンネル(P.7-6)に上空用チャンネル(S1~S15)が設定されている場合は、上空用チャンネルをプライベートチャンネルスキャンの対象にできます。※上空用チャンネルの設定は販売店にご依頼ください。

◎スキャン中に呼び出す場合は、通話チャンネルで送信します。

6 そのほかの機能について

■ メモリーチャンネルスキャン機能

よく利用する通話チャンネルと、詳細設定モードで設定したチャンネルを順次切り替える機能です。

※工場出荷時やユーザーリセット時の状態では、使用できません。

操作の前に、詳細設定モードで、[P] (プログラム) キーの動作 (P.7-6) を「P短 MC」、または「P長 MC」に設定してください。

※メモリーチャンネルスキャンをお使いになる前に、「スキャンするチャンネルの設定」 (P.7-6) でスキャンの対象にする通話チャンネルを設定してください。

【操作のしかた】

◎「P長 MC」に設定した場合

[P] (プログラム) キーを長く (約1秒) 押します。

◎「P短 MC」に設定した場合

[P] (プログラム) キーを短く押します。

【メモリーチャンネルスキャンのイメージ】



【メモリーチャンネルスキャンを解除するには】

[全⇄基] キー、または [機能/Ⓜ-O] キーを押します。

※スキャン開始と同じ操作でもスキャンを解除できます。

※電源を入れなおしても、解除されません。

【メモリーチャンネルスキャンの動作について】

◎設定したチャンネルが1件だけで、その番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、スキャンしません。

◎スキャン中に緊急呼び出しをすると、スキャン動作を解除して、通話チャンネルで緊急信号を送信します。

◎電波を受信中は、詳細設定モードのスキャン停止時間とスキャン再開時間の設定にしたがってスキャンします。

(P.7-6、P.7-7)

このとき、緊急呼び出しをすると、スキャン動作が解除されます。

◎上空用チャンネル (S1～S15) が設定されている場合は、上空用チャンネルをメモリーチャンネルスキャンの対象に設定できます。

※上空用チャンネルの設定は販売店にご依頼ください。

◎スキャン中に呼び出す場合は、通話チャンネルで送信します。

■ ポケットビープ機能

下記の呼び出しを受けたとき、有効になる機能です。

このときに鳴るビープ音は、いずれかのキーやスイッチの操作で、停止できます。

※工場出荷時やユーザーリセット時の状態では、使用できません。

詳細設定モードから設定を変更できます。(P.7-1)

【ユーザーコードによる呼び出しを受けたとき】

📶 の点滅とビープ音で通知します。

【個別呼び出しによる呼び出しを受けたとき】

個別番号と 📶 の点滅とビープ音で通知します。

※ユーザーコードと併用したときも同じです。

※ポケットビープ機能が設定されていない状態で呼び出しを受けたときは、ビープ音は鳴らず、個別番号と 📶 の点滅だけになります。

■ 呼び出しメロディー機能

個別番号、グループ番号で呼び出しを受けたときにPベル機能、ポケットビープ機能、呼出着信音機能の呼び出し音をメロディー音 (9種類) に設定できます。

このときに鳴るビープ音は、いずれかのキーの操作で、停止できます。

※Pベル機能、ポケットビープ機能のメロディーを変更する場合は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

呼出着信音機能のメロディーを変更する場合は、詳細設定モードで変更できます。(P.7-5)

※呼び出しを受けたときの表示は、ポケットビープ機能と同じです。

【呼出着信音を使用すると】

個別番号 (0001～0010の10局)、グループ番号 (01～10の10局) で、異なる呼び出し音が設定できます。

(P.7-5)

■ 着信表示

「着信表示」が設定されていると、個別呼び出しを受けたときだけ、[送・受] ランプが橙色に点滅します。

[全⇄基] キーを押すと、点滅が停止します。

※設定はお買い上げの販売店にご依頼ください。

6 そのほかの機能について

■ 発着信履歴機能

個別呼び出し、およびグループ呼び出しを送受信したとき、個別番号(相手の自局番号)やグループ番号が記憶されます。

記憶された個別番号は、呼び出しに利用できます。

※工場出荷時やユーザーリセット時の状態では、使用できません。

発着信履歴機能をご使用になるには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【発着信履歴の確認と呼び出しについて】

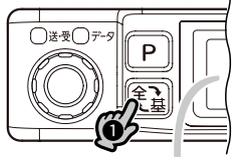
① **[全⇄基]** キーを繰り返し短く押し、「発歴1」、または「着歴1」表示を選択します。

② 発信、または着信履歴が2件以上の場合は、「発歴1」、または「着歴1」表示の状態で、**ツマミ**を回すと、確認できます。

※「1」から順に最新の履歴となるように記憶します。

【着信履歴の場合】

① 繰り返し短く押す



1件目着信履歴



個別番号履歴

② 回す



2件目着信履歴



グループ番号履歴

③ 呼び出す相手、またはグループの番号を表示した状態で、**[PTT]**(送信)スイッチを押しながら、相手に呼びかけます。

- **[送・受]** ランプが赤色に点灯します。

【発着信履歴の内容や件数に異常があるときは】

詳細設定モードの発着信履歴消去(P.7-5)から履歴を消去してください。

それでも改善しない場合は、全設定を初期化(P.9-1)してください。

【発着信履歴件数と履歴の消去について】

※最大10件の発着信履歴を記憶できます。

10件を超えると、古い履歴から削除されます。

※全体呼び出しの場合は、着信履歴を記憶しません。

※発着信履歴の消去(P.7-5)は、詳細設定モードからできます。

■ 送信出力の切り替え機能

無線機の送信出力を切り替えできる機能です。

※送信出力の切り替え機能をご使用になるには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【操作のしかた】

「ピピッ」と鳴るまで、**[全⇄基]** キーを長く(約1秒)押します。

※長く(約1秒)押しすごとに、ハイパワー(5W:**[H]**)とローパワー(1W:**[L]**)が切り替わります。

※**[R]**(P.1-2)が表示されている通話チャンネルを選択したときは、送信出力を切り替えできません。



送信出力表示

「設定モード」、または「詳細設定モード」から、本製品の各機能を変更する方法について説明します。

■ 設定一覧

設定モード、詳細設定モードによって、設定できる項目が異なります。

以下の一覧表を参考に、必要な項目を設定してください。

□欄は、設定モードでも変更できる設定項目です。

機能名称	名称表示	初期値	参照
Pベル ^{*2}	Pベル	OFF	7-2
ポケットビープ	Pビープ	OFF	7-3
秘話	秘話	OFF	7-3
秘話キー ^{*8}	キー	00001	7-3
送信出力	出力	5W	7-3
マイクゲイン	マイクG	0	7-3
ユーザーコード	UC	CH共	7-3
CH毎ユーザーコード ^{*1}	O1	OFF	7-3
個別呼び出し	個別	OFF	7-4
自局番号の設定 ^{*2}	自局	0001	7-4
基地局番号の設定 ^{*2}	基地	0099	7-4
グループ設定 ^{*2}	グリスト	グループ 0001	7-4
終話後表示 ^{*2}	終表	全体	7-4
優先個別番号 ^{*2*4}	個別	0099	7-5
発着信履歴消去 ^{*2}	履歴	---	7-5
呼出着信音 ^{*2*7}	個別/グループ	0001	7-5
プライベートチャンネル	PvCH	OFF	7-5
プライベートチャンネルの設定 ^{*3}	PvCH	呼出	7-6
[P] (プログラム) キー短押し	P短	ホーム	7-6
[P] (プログラム) キー長押し	P長	モニタ	7-6
スキャンするチャンネル ^{*5}	CH	01	7-6
スキャン停止時間 ^{*6}	停止	10S	7-6
スキャン再開時間 ^{*6}	再開	5S	7-7
通話後スキャン動作 ^{*6}	話後	解除	7-7
キーロック時の音量操作	ロック	全キー	7-7
スピーカー出力	EXSP	AUTO	7-7
チャンネル番号音声案内	案内	ON	7-7
受信電波強度通知機能	受通	OFF	7-7
妨害波アラーム	妨アラ	OFF	7-8
LCDコントラスト	LCD	12	7-8
LCDバックライト	ライト	ON	7-8
LCDバックライト輝度	輝度	4	7-8
ユーザーリセット	リセット	NO	7-8

*1ユーザーコードの設定が「CH毎」の場合だけ表示されます。

*2個別呼び出しの設定が「ON」の場合だけ表示されます。

*3プライベートチャンネル機能の設定が「ON」の場合だけ表示されます。

*4終話後表示の設定が「終表優先」の場合だけ表示されます。

*5 [P] (プログラム) キー短押し、または [P] (プログラム) キー長押しの設定が「MC」のとき、設定できます。

*6 [P] (プログラム) キー短押し、または [P] (プログラム) キー長押しの設定が「PRI」または「MC」のとき、設定できます。

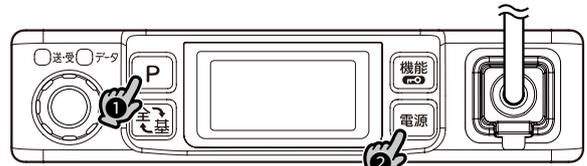
*7ポケットビープの設定が「OFF」のとき、設定できます。

*8秘話が「ID1」～「ID20」のとき、表示されます。

■ 設定モードに移行するには

【操作のしかた】

- ①本製品の電源を切ります。
- ②[P] (プログラム) キーを押しながら、[電源] キーを押しつづけます。



①を押しながら、②を長く押す

- ③「設定」と表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。

●「出力」が表示されると、設定モードに移行しています。



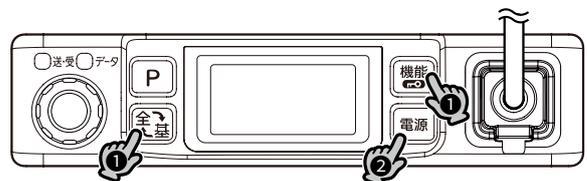
※設定モードに移行しているときは、呼び出しを受信できません。

- ④「■ 設定のしかた」(次ページ)の操作をすると、設定値を変更できます。

■ 詳細設定モードに移行するには

【操作のしかた】

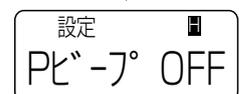
- ①本製品の電源を切ります。
- ②[全⇄基] キーと[機能/⇄O] キーを同時に押しながら、[電源] キーを押しつづけます。
- ③「詳細設定」と表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。



①を同時に押しながら、②を長く押す

- 「Pビープ」が表示されると、詳細設定モードに移行しています。

※詳細設定モードに移行しているときは、呼び出しを受信できません。



- ④「■ 設定のしかた」(次ページ)の操作をすると、設定値を変更できます。

7 各種機能の設定

■ 設定のしかた

設定モード、または詳細設定モードに移行後、下記の手順で各機能の設定を変更できます。

【操作のしかた】

① **[P]** (プログラム) キー、または **[全⇄基]** キーを繰り返し短く押し、設定項目を選択します。

② **ツマミ** を回して、設定を変更します。

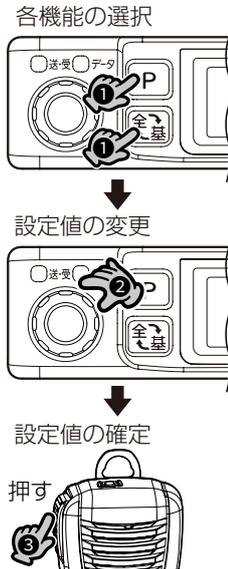
※ほかの機能も変更するときは、①と②の操作を繰り返します。

③ **[PTT]** (送信) スイッチを押します。

● 選択した設定値を確定し、設定モード、または詳細設定モードが解除されます。

※設定値を変更後に、電源を切った場合でも、設定値が確定されます。(ユーザーリセットを除く)

※設定モード、または詳細設定モードを解除するまで通話できません。



■ 設定項目について

Pベル

(初期設定: OFF)



Pベル機能を設定します。

Pベル機能を使用すると、呼び出し(全体/個別/グループ)を受けたとき、応答するまで相手の音声をミュート(聞こえないように)します。

※この項目は個別呼び出しの設定が「ON」の場合だけ表示されます。

- OFF : Pベル機能を使用しない
- BON : 個別、グループ、または全体呼び出しを受信したとき、音声をミュートしてブザーが鳴る
- MON : 個別、グループ、または全体呼び出しを受信したとき、音声をミュートしてメロディーが鳴る
- BOF : 個別、グループ、または全体呼び出しを受信したとき、音声をミュートするがブザーは鳴らない

【BON、MON、BOFに設定した場合】

◎無線機の表示部には、が表示されます。

◎ポケットビープ機能と併用する場合、基地局/個別呼び出しを受けたとき、Pベル機能のブザー(ピー音、3回)、またはメロディー音(1回)が鳴ったあとに、ポケットビープ機能で設定された呼び出し音、またはメロディー音(3回)が鳴ります。

また、「BOF」に設定すると、基地局/個別呼び出しを受けても、ポケットビープ機能で設定された呼び出し音やメロディー音は鳴りません。

7 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

設定方法については、P.7-1～P.7-2をご覧ください。

ポケットビープ (初期設定:OFF)



ユーザーコードによる呼び出し、または個別呼び出し機能による個別呼び出しを受けたとき、呼び出し音のパターンを設定します。

- OFF : ポケットビープを使用しない
 - 30回 : 「トルルル」と音が30回連続で鳴る
 - 3回 : 「トルルル」と音が3回連続で鳴る
 - 1分 : 「トルルル」と音が3回連続で鳴ったあと、1分ごとに1回鳴る
 - 連続 : 「トルルル」と音が3回連続で鳴ったあと、2秒ごとに1回鳴る
 - PIー : 「ピー」と音が1回鳴る
 - PPP : 「ピピピ」と音が1回鳴る
 - MELO : あらかじめ設定されたメロディー音が鳴る
- ※グループ、または全体呼び出しを受けたときは、ポケットビープが「OFF」以外に設定されていても鳴りません。

秘話 (初期設定:OFF)



通話を他者に聞かれないようにする秘話機能を設定します。

【秘話IDの設定】

- OFF : 秘話機能を使用しない
- ID1～ID20 : 秘話機能を使用し、秘話キーが設定された[秘話ID1～ID20]のメモリーを選択する

【秘話キーの設定】

[P](プログラム)キーを長く押しすごとに、「秘話ID」と「秘話キー」の表示が切り替わります。

- 選択範囲: 00001～32767



※呼出用チャンネル(15チャンネル)では、秘話通信が禁止されています。

呼出用チャンネルを選択した場合、秘話機能が一時的に「OFF」になります。

【ご注意】

送信側と受信側に異なるIDを設定していても、それぞれの[ID1～ID20]にメモリーされている秘話キーが同じ場合は音声が届きます。

送信出力 (初期設定:5W)



送信出力を設定します。

- 5W : 送信出力を5Wに設定する
 - 1W : 送信出力を1Wに設定する
 - CH : チャンネルごとに送信出力を設定する
- ※チャンネルごとに送信出力を設定するには、お買い上げの販売店にご依頼ください。

マイクゲイン (初期設定:0)



マイクの感度を設定します。

- 選択範囲: -15(低)～0(中)～9(高) 3dB単位
- ※周囲の騒音が大きい場所では、低い値に設定し、大きめの声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。
- また、周囲の雑音が少ない場所では、高い値に設定し、小さめの声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。

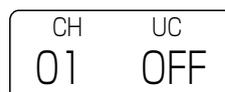
ユーザーコード (初期設定:CH共)



通話チャンネル共通のユーザーコードを使用するか、通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用するかを設定します。

- CH共 : 通話チャンネル共通のユーザーコードを使用する
- CH毎 : 通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用する

CH毎ユーザーコード (初期設定:OFF)



※この項目はユーザーコードの設定が「CH毎」の場合だけ表示されます。

チャンネルごとのユーザーコードを設定します。

- CHの選択範囲: 01～82
- ※15チャンネルはユーザーコードを設定できません。
- UCの選択範囲: OFF、001～511

7 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

設定方法については、P.7-1～P.7-2をご覧ください。

個別呼び出し

(初期設定:OFF)

設定
個別 OFF

同じ通話チャンネルを使用する相手のうち、通話したい相手だけを呼び出す機能を設定します。

- OFF :使用しない
- ON :使用する

自局番号の設定

(初期設定:0001)

自局
自局 0001

この項目で設定する自局番号で個別呼び出しを受けると着信します。

- 選択範囲:0001～0245
- ※ 9999まで設定したい場合は、販売店にご依頼ください。
- ※ [個別] (個別呼び出し)を「ON」に設定したとき表示されます。

基地局番号の設定

(初期設定:0099)

基地
基地 0099

個別呼び出しに使用する基地局の個別番号を個別番号設定の内容から設定します。

- 選択範囲:0001～0245
- ※ 9999まで設定したい場合は、販売店にご依頼ください。
- ※ [個別] (個別呼び出し)を「ON」に設定したとき表示されます。

グループ設定

(初期設定:0001)

グリスト
グループ 0001

個別呼び出しに使用するグループの参加/不参加を設定します。

- 選択範囲:0001～0010
- ※ 9999まで設定したい場合は、販売店にご依頼ください。
- ※ [個別] (個別呼び出し)を「ON」に設定したとき表示されます。

グループを選択して【機能/Ⓜ-○】キーを長く押しごときに「グループID」、「メンバーとなるグループID」の切り替えができます。

- グリスト:グループID
このグループ番号の呼び出しは受けません。
(このグループ番号を選択して、呼び出すことはできません。)
- グリスト☒:メンバーとなるグループID
このグループ番号を呼び出すことも、呼び出しを受けることもできます。
- ※ 「メンバーとなるグループID」選択時、表示部に「☒」が点灯します。

終話後表示

(初期設定:全体)

設定
終表 全体

通話が終わった(待ち受け状態)とき、表示部の表示をどの状態にするかを設定します。

- 話前 :通話前に表示していた内容を、再度表示する
- 話中 :通話中に表示していた内容を、そのまま継続して表示する
- 全体 :全体呼び出し表示[全体]を表示する
- 基地 :[基地局番号]で表示された個別番号を表示する
- 個別 :[個別番号]を表示する
- GRP :[グループ番号]を表示する
- 着歴 :着信履歴を表示する
- 発歴 :発信履歴を表示する
- 優先 :[優先個別番号]で表示された個別番号を表示する
- ホーム:通話チャンネルを表示する

※ [個別] (個別呼び出し)を「ON」に設定したとき表示されます。

7 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

設定方法については、P.7-1～P.7-2をご覧ください。

優先個別番号 (初期設定: 個別0099)

優先ID
個別0099

同じ通話チャンネルを使用する相手のうち、通話したい相手だけを呼び出す機能を設定します。

通話が終わった(待ち受け状態)とき、表示部に表示する個別番号を設定します。

- 選択範囲 : 個別0001～0245
 : グループ0001～0010

※ 9999まで設定したい場合は、販売店にご依頼ください。
※ [個別] (個別呼び出し) を「ON」に設定し、終話後表示を「優先」に設定したときに表示されます。(P.7-4)

発着信履歴消去 (初期設定: ---)

設定
履歴 ---

自局番号の設定/基地局番号の設定/グループ設定を変更したとき、この機能で発着信履歴を削除してください。

- --- : 何もしない
 - CLR : 履歴を削除する
- ※ [個別] (個別呼び出し) を「ON」に設定したとき表示されます。(P.7-4)
- ※ [CLR] を選択後、[PTT] (送信) スイッチを押さない状態で、ほかの設定項目に移動したときは、発着信履歴を消去して「---」に切り替わります。

呼出着信音 (初期設定: OFF)

個別番号、グループ番号ごとに、異なる呼び出し音のパターンを設定します。

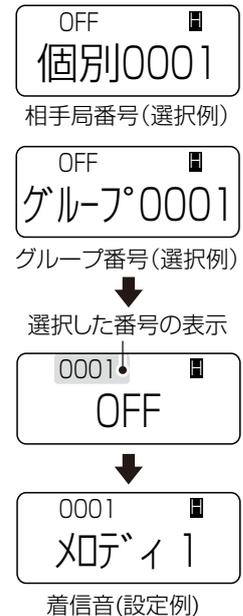
- OFF : 使用しない
- 30回 : 「トルルル」と音が30回連続で鳴る
- 3回 : 「トルルル」と音が3回連続で鳴る
- 1分 : 「トルルル」と音が3回連続で鳴ったあと、1分ごとに1回鳴る
- 連続 : 「トルルル」と音が3回連続で鳴ったあと、2秒ごとに1回鳴る

- PI- : 「ピー」と音が1回鳴る
 - PPP : 「ビピビ」と音が1回鳴る
 - X0ディ1～9 : 設定した番号のメロディー音が鳴る
- ※ [Pビープ] (ポケットビープ) を「OFF」に設定したとき表示されます。

※ 全体呼び出しを受けたときは、呼び出し音が「OFF」以外に設定されていても鳴りません。

【設定のしかた】

- ① ツマミを回して、個別番号、またはグループ番号を選択します。
 - 選択範囲: 個別0001～個別0010、グループ0001～グループ0010
- ② [機能/ON] キーを短く押します。
 - 「OFF」(初期設定) が表示されます。
- ③ ツマミを回して、呼出着信音を選択します。
- ④ [機能/ON] キーを短く押します。
 - ※ ほかの番号も設定するとき、①～④を繰り返します。



プライベートチャンネル (初期設定: OFF)

設定
PvCH OFF

プライベートチャンネル機能を設定します。

- ON : 使用する
 - OFF : 使用しない
- ※ 「ON」に設定すると、[P] (プログラム) キーによるプライベートチャンネルへの切り替え操作が有効になります。

7 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

設定方法については、P.7-1～P.7-2をご覧ください。

プライベートチャンネルの設定 (初期設定:呼出)



通話チャンネルからプライベートチャンネルにする番号を設定します。

- 選択範囲:01～14,呼出、16～82、S1～S15*
- ※ [PvCH] (プライベートチャンネル)を「ON」に設定したとき表示されます。(P.7-5)
- ★上空用チャンネル(S1～S15)の設定は、販売店にご依頼ください。

[P](プログラム)キー短押し (初期設定:ホーム)



[P](プログラム)キーを短く押したときの動作を設定します。

[P](プログラム)キー長押し (初期設定:モニタ)



[P](プログラム)キーを長く押したときの動作を設定します。

- 無効 :動作しない
- PRI :プライベートチャンネルスキャンの開始
- MC :メモリーチャンネルスキャンの開始
- 案内 :通話チャンネル番号の読み上げ
- CH :通話チャンネル番号表示と周波数表示を切り替える
- P-CH :通話チャンネル番号表示とプライベートチャンネル番号表示を切り替える
- 拡声 :拡声器の動作開始/停止を切り替える
- ホーム :通話チャンネル表示に戻す
- モニタ :押しているあいだけモニター機能(P.6-1)が動作する([P](プログラム)キー長押しに対して設定できます。)

※「PRI」選択時、プライベートチャンネル番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、スキャンしません。

※「MC」選択時、設定したチャンネルが1件だけの場合、そのチャンネル番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、スキャンしません。

スキャンするチャンネル (初期設定:01)

メモリーチャンネルスキャンの対象にする通話チャンネルを設定します。

※ [P] (プログラム)キー短押し、または [P] (プログラム)キー長押しを、「MC」に設定したとき表示されます。

【設定のしかた】

① **ツマミ**を回して、スキャンの対象にする通話チャンネル番号を選択します。

- 選択範囲:01～14,呼出、16～82、S1～S15*



通話チャンネル番号選択

② **【機能/⇐○】**キーを長く押すごとに、指定と解除が切り替わります。

- 指定すると、「S」が点灯します。



スキャンチャンネル指定

★上空用チャンネル(S1～S15)の設定は、販売店にご依頼ください。

スキャン停止時間 (初期設定:10S)



電波を受信中、プライベートチャンネルスキャン、またはメモリーチャンネルスキャンを停止する時間を設定します。

- 選択範囲:2S～20S(2秒単位)、保持
- ※ [P] (プログラム)キー短押し、または [P] (プログラム)キー長押しを、「PRI」、または「MC」に設定したとき表示されます。

※「保持」を選択したときは、受信信号がなくなるまで、スキャンを停止します。

※受信信号がなくなると、[スキャン再開時間]の設定にしたがって、スキャンを再開します。

7 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

設定方法については、P.7-1～P.7-2をご覧ください。

スキャン再開時間 (初期設定:5S)



スキャン停止時間が経過する前に電波が途切れたとき、スキャンが再開するまでの時間を設定します。

- 即時 : すぐにスキャンを再開
- 1S～5S : 設定時間(秒)後にスキャンを再開
- シナイ : スキャン停止時間が経過する前に電波が途切れたとき、スキャンを再開しない

※ [P] (プログラム) キー短押し、または [P] (プログラム) キー長押しを、「PRI」、または「MC」に設定したとき表示されます。

通話後スキャン動作 (初期設定:解除)



スキャン中、[PTT] (送信) スイッチを操作したときのスキャン動作を設定します。

- 再開 : 数秒後、スキャンを再開
- 解除 : スキャンを解除

※ [P] (プログラム) キー短押し、または [P] (プログラム) キー長押しを、「PRI」、または「MC」に設定したとき表示されます。

キーロック時の音量操作 (初期設定:全キー)



ロック機能動作中の音量操作についての設定です。

- 全キー : 音量操作を無効にする
- VOL : 音量操作を有効にする

〈ロック中にできる操作〉

- ◎ ロック機能の解除
- ◎ 送信/受信の切り替え
- ◎ 電源の「入」/「切」

※ エマージェンシーの設定が「ON」の場合は、キーロック中でも緊急呼び出しの操作ができます。

【設定変更時のご注意】

ロック機能が「ON」で電源を切り、詳細設定モードに移行して、「キーロック時の音量操作」の設定を変更したときだけ、ロック機能が「OFF」になります。

スピーカー出力 (初期設定:AUTO)



外部スピーカーを接続したとき、スピーカーマイク(弊社製)から受信音を出力するかしないかの設定です。

- AUTO : 外部スピーカーだけに音を出す
- ON : 外部スピーカーとスピーカーマイクの両方に音を出す
- FMIC : スピーカーマイクだけに音を出す

【ご注意】

市販の外部スピーカー(ステレオプラグ)を接続した場合、外部スピーカーから音が出ないことがあります。

※ 別売品(8章)のスピーカーをご使用ください。

チャンネル番号音声案内 (初期設定:ON)



通話チャンネル番号を読み上げる機能の設定です。

- OFF : 使用しない
- ON : 電源を入れたときや、チャンネルを変更したときに、選択されたチャンネル番号を読み上げる

※ 「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15) 選択時は、「呼び出し」と読み上げます。

※ 上空用チャンネル(CH S1～CH S15) 選択時は、チャンネル番号の前に、「上空」を付けて読み上げます。

受信電波強度通知機能 (初期設定:OFF)



受信電波強度通知機能の設定です。

- OFF : 警告音で通知しない
- ON : 通話がつづけられない状態まで受信信号の強度が弱くなると、ビープ音(ピンポン)が鳴る

7 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

設定方法については、P.7-1～P.7-2をご覧ください。

妨害波アラーム (初期設定:OFF)

設定
妨害波 OFF

妨害波アラームの設定です。

- OFF : 使用しない
- ON : 使用する

※下記の電波を受信したとき、妨害波とみなして、警告音(ブツ)が鳴ります。

警告音は、妨害波を受信しているあいだ1秒間隔で鳴りつづけます。

- ◎自局とユーザーコードが異なる電波を受信したとき
- ◎自局と秘話機能ON/OFFの設定が異なる電波を受信したとき

LCDコントラスト (初期設定:12)

設定
LCD 12

表示部のコントラスト(濃淡)を調整します。

- 選択範囲:0(淡)～25(濃)

※【機能/Ⓜ-O】キーを長く押し、初期設定に戻ります。

LCDバックライト (初期設定:ON)

設定
ライト ON

送信以外の操作をすると、表示部とキーの照明を自動点灯させるかさせないかを設定します。

- OFF : 点灯しない
- AUTO : 送信以外の操作すると、照明が約5秒点灯する
- ON : 電源を切るまで消灯しない

LCDバックライト輝度 (初期設定:4)

設定
輝度 4

表示部と各キーの照明の明るさを設定します。

- 選択範囲:1～7

ユーザーリセット (初期設定:NO)

設定
リセット NO

すべての設定を工場出荷時の状態に戻す(リセット)ときの設定と操作です。

- NO : [PTT] (送信)スイッチを押しても、初期化しない

- YES : [PTT] (送信)スイッチを押すと、初期化する

※「YES」を選択後、[PTT] (送信)スイッチを押さない状態で、ほかの設定項目に移動したときは、初期化しないと認識され、「NO」に切り替わります。

【ご注意】

設定値がリセットされ再起動するまでの2秒間は、無線機の電源を切らないでください。

※リセットの途中で電源が切れると、故障の原因になることがあります。

■ 別売品についてのご注意

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。

弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障、または動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

■ ホームページに掲載

別売品一覧については、弊社ホームページ
<https://www.icom.co.jp/> でもご覧いただけます。

■ 別売品一覧表

★: IP54の防塵/防水性能があります。
 上記、防塵/防水性能は、「IP表記について」(P.ii)をご覧ください。

外部スピーカー

- SP-30 :外部スピーカー(20W/4Ω)
 ※ケーブル長:約2.8m
- SP-35 :外部スピーカー(5W/4Ω)
 ※ケーブル長:約2m

外部電源

- PS-230A :卓上電源装置(スピーカー内蔵:7W/8Ω)

マイクロホン関係

- AM-5 :アーム型マイクロホン(磁石付き基台)
- SM-28 :デスクトップマイクロホン
- HM-204★ :防水スピーカーマイク
 ※OPC-647を使用したときは、本製品、およびHM-204の防塵/防水性能を維持できません。
- HM-206★ :コマンドマイク
 ※OPC-647を使用したときは、本製品、およびHM-206の防塵/防水性能を維持できません。
- OPC-647 :マイクロホン延長ケーブル(約2.5m)
 ※AM-5、SM-28、HM-204、HM-206のいずれかでお使いになれます。
 ※最大2本まで接続してお使いになれます。

■ AM-5(アーム型マイクロホン)

エレクトレット形コンデンサーマイクロホンです。
 ※外部スピーカー(別売品:SP-30、SP-35)と併せてご用意ください。

底面に強力な磁石を使用しています。

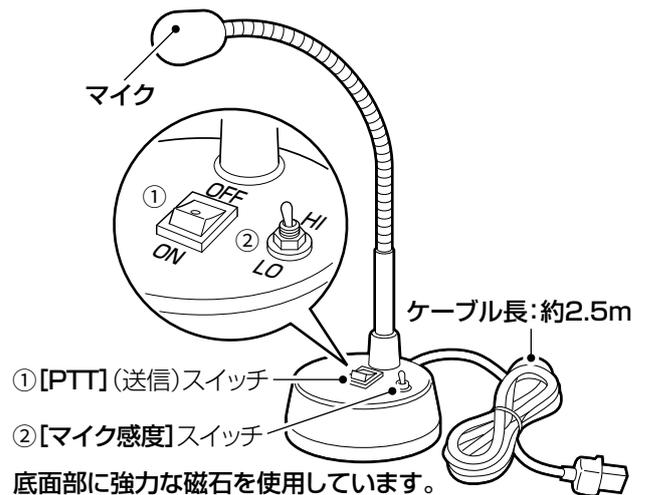
△警告

心臓ペースメーカーなど電子医療機器をお使いのかたは、心臓ペースメーカーなどの植え込み部位の上にマイクロホンの底面部分を近づけたり、当てたりしないでください。

電子医療機器などの動作に影響を与え、生命の危険があります。

△注意

時計、コンパスや精密機器、キャッシュカードやクレジットカードなどの磁気/ICカードを近づけないでください。
 製品の誤動作の原因になったり、磁気/ICカードの内容が消去されたりすることがあります。



① [PTT] (送信) スイッチ

「ON」にすると送信、「OFF」にすると待ち受け状態になります。

② [マイク感度] スイッチ

「HI」にすると感度が高くなり、「LO」にすると低くなります。

※マイクとの距離、声の大きさ、周囲の騒音など、環境に応じて、切り替えてください。

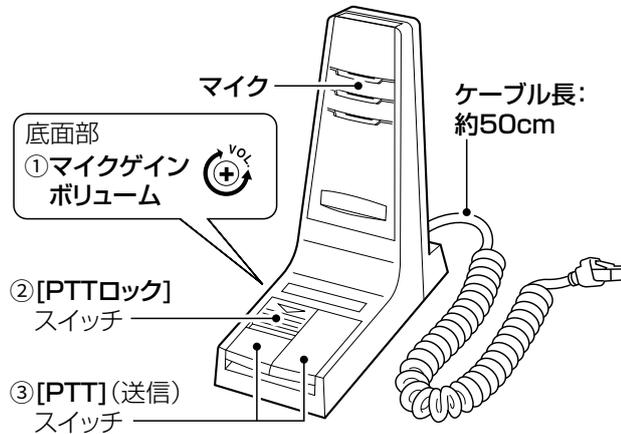
※本製品の設定モードでも調整できます。(P.7-1)

8 別売品とその使いかた

■ SM-28(デスクトップマイクロホン)

マイクアンプ内蔵の単一指向性ダイナミックマイクロホンです。

※外部スピーカー(別売品:SP-30、SP-35)と併せてご用意ください。



① マイクゲインボリューム

マイクとの距離、声の大きさ、周囲の騒音など、環境に応じて、マイクの感度を調整します。

※ボリュームを左に回すと、感度が高くなります。

② [PTTロック]スイッチ

押しながら三角印の方向にスライドすると、[PTT](送信)スイッチ(③)がロックされ、ハンズフリーで送信できます。

ロックを解除するときは、反対方向にスライドします。

③ [PTT](送信)スイッチ

押し続けている間は送信状態、はなすと待ち受け状態に戻ります。

■ 日常の保守と点検について

- ◎ 清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。
- ◎ 定期的に決まった位置の相手局と通話して、通話状態に変化がないかを調べてください。
- ◎ 音量が最小に調整されていないか、ツマミを回して、表示される音量レベルを確認してください。
- ◎ 車載でご使用になるときは、アンテナが確実に固定されていることを確認してください。

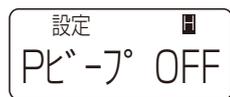
■ 初期状態に戻す(リセットする)には

下記の操作で、すべての設定が工場出荷時の状態になります。

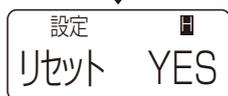
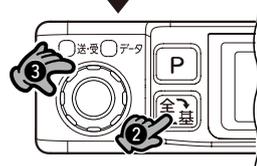
【操作のしかた】

- ① 詳細設定モードに移行します。(P.7-1)
 - 「Pビープ OFF」を表示します。
- ② **[全設定]** キーを1回押します。
 - 「リセット NO」を表示します。
- ③ ツマミを回して、「リセット YES」表示を選択します。
- ④ **[PTT]** (送信) スイッチを短く押します。
 - 設定値がリセットされ、無線機が再起動します。

- ① 詳細設定モードに移行する



移行直後の表示(例:OFF)



【ご注意】

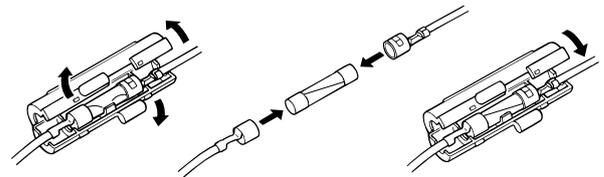
設定値がリセットされ再起動するまでの2秒間は、無線機の電源を切らないでください。

※リセットの途中で、エンジンを始動させるなどして、一時的に電源が切れると、故障の原因になることがあります。

■ ヒューズの交換について

DC電源ケーブル(付属品)には、2本のヒューズ(125V/5A)が使用されています。

- ※ヒューズが切れて動作しなくなったときは、原因を取り除いてから新しいもの(付属品)と交換してください。
- ※下図のヒューズカバーには、「5A」のシールが貼られています。



9 保守について

■ 故障かな?と思ったら

下記のような現象は故障ではありませんので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。

それでも異常があるときは、弊社サポートセンター(P.9-3)までお問い合わせください。

現象	原因	処置	参照
電源が入らない	接続端子の接触不良	バッテリー、または卓上電源装置(別売品:PS-230A)との接続を確認する	—
	DC電源ケーブルのヒューズが切れている	原因を取り除いたあとで、新品のヒューズと交換する	P.9-1
スピーカーから音が聞こえない	音量が最小に調整されている	無線機本体の音量レベルを確認する	P.2-1
	スピーカー出力の設定が正しくない	詳細設定モードで、スピーカー出力の設定を確認する	P.7-7
	マイクロホン、または外部スピーカー端子の接触、または接続されていない	マイクロホン、または外部スピーカーが正常に接続されているか、ケーブルが断線していないかを点検する	—
送信できない (ブップッ・・・が鳴る)	5分間の送信時間制限が過ぎたとき	1分以上待ってから、もう一度送信する	P.2-4
	ほかの無線機が送信しているため、混信防止機能が動作している	[送・受] ランプ(緑色)が消灯してから送信する	P.2-4
通話できない	通話チャンネルが合っていない	相手と同じ通話チャンネルに合わせる	P.2-2
	ユーザーコードを設定していない	相手と同じユーザーコードを設定する	P.3-1
	相手が秘話機能を使用していない、または自分の秘話IDと秘話キーの設定が異なる	相手の秘話機能と秘話IDに設定された秘話キーを確認する	P.4-1
	個別番号、またはグループ番号を間違えている	個別番号、またはグループ番号を確認する	P.5-2、 P.5-3
相手から応答がない	相手との距離がはなれすぎている	場所を移動してから通話してみる	P.2-4
	相手局が不在、または電源を切っている	自局、または相手局の状態を確認する	—
通話チャンネル選択と送信出力切り替え以外の設定ができない	呼出用チャンネル(呼出CH)を設定している	通話チャンネル(CH01~CH14、CH16~CH82)に変更する	P.2-2
「キーロック」と表示される	ロック機能が動作している	ロック機能を解除する	P.6-1
モニター機能が使用できない	モニター機能を [P] (プログラム)キーで動作するように設定していない。	詳細設定モードで、 [P] (プログラム)キー長押し動作を「モニタ」に設定する	P.7-6
スキャン機能が使用できない	スキャン機能を [P] (プログラム)キーで動作するように設定していない。	詳細設定モードで、 [P] (プログラム)キー短押し、または [P] (プログラム)キー長押し動作を「PRI」、「MC」に設定する	P.7-6

9 保守について

■ アフターサービスについて

「■ 故障かな?と思ったら」(P.9-2)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

■ 保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

■ 保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

● 保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

● 弊社製品のお問い合わせ先について

お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先:アイコム株式会社 サポートセンター
0120-156-313(フリーダイヤル)

◆ 携帯電話・公衆電話からのご利用は、
06-6792-4949(通話料がかかります)

受付(平日 9:00~17:00)

電子メール:support_center@icom.co.jp

アイコムホームページ:<https://www.icom.co.jp/>

How the World Communicates

～コミュニケーションで世界をつなぐ～



本社 東京都品川区南品川 2-7-18 TEL 03-5715-2351
 関西支店 大阪市西区千代崎 1-24-11 TEL 06-6583-7700

札幌営業所 名古屋営業所
 仙台営業所 九州営業所

<https://www.jenix.co.jp/> 営業所住所はこちら▶

